

八五五 三月十九日

石井外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛(電報)

中国時局ニ関シ内話ノ為森田領事派遣ノ件

附記 森田領事ノ談話要領

第八六号 極秘

時局ニ関シ直接貴官ニ内話ノ必要上森田領事ヲ貴地ニ派遣スルコトトナリ同官ハ三月廿一日東京発朝鮮經由同様ノ目的ノ為間島ヲ除ク在滿各領事館ニ立寄りタル上貴地ニ赴クニツキ右様内密御含アリタシ尚同官出張名義ハ主トシテ日支条約実施ノ關係上支那警察法令及課税問題ヲ実地ニ就キ調査シ且ツ關係領事館ト打合ノ為ナルニ付御含迄

(附記)

森田領事ノ談話要領

極秘

為後日記録ス

森田領事ハ支那時局ニ関シ特ニ石井大臣ノ命ヲ受ケ在滿各領事並ニ在北京日置公使ニ内話ノ為三月二十一日東京発安東、奉天、牛莊、長春、哈爾濱ノ各地ヲ經テ北京ニ臻リ四月八日帰京シタリ

右ハ特ニ申添ユル次第ナリ

八五六 三月二十二日

中村関東都督ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

宗社党等ノ取締ニ手心ヲ加フベキ旨部下ニ内

訓シタルモ以後ハ嚴重取締ルベキ件

秘第二七号

貴電第二八号敬承目下管内ニ於ケル宗社党革命党ノ運動モ目立チタルコトナシ本官ハ内閣對支方針ノ電訓ニ接シテヨリ管内ニ於ケル宗社党革命党ノ行動ニ對シ之カ取締上手心ヲ加フルノ必要アリト認メ其趣旨ヲ部下警察憲兵等ノ長官ノミニ限リ内訓シ置キタルモ地方邦人間ニハ薄々政府對支方針ヲ洩聞キ風聞スルモノ有之此際輕拳暴動ヲナスカ如キコトナキ様此等ニ對シテハ御電訓ノ趣旨ニ依リ十分取締ヲ嚴ニ致スヘシ御含迄

八五七 三月三十日

在哈爾濱黑木大尉ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

宗社党青柳予備大尉等蒙古巴布札布將軍ノ下

ニ向ヒタル旨報告ノ件

附記一 肅親王ヨリ大倉喜八郎宛書寫

關係各領事ノ氏名及談話ノ要領左ノ如シ

吉田、矢田、山田、土谷、天野、佐藤、二瓶、鈴木ノ各領事 酒匂、三宅兩領事代理、竹内分館主任

日置公使(參考迄ニ)

談話ノ要領

支那時局ノ推移ニ鑑ミ引續キ袁氏ヲ權要ノ地位ニ置クコトハ我國ニ執リ甚不利ナルニヨリ帝國政府ハ彼ヲシテ現在ノ地位ヨリ脫落セシムルヲ必要ト認メ居ル処目下滿洲及蒙古ノ各地方ニ於テハ民心漸ク袁氏ヲ離レ或ハ地方ニヨリテハ進シテ反袁ノ氣瀾蔓シ或ハ既ニ其運動ニ着手セルモノアルコトハ諸君ノ知ル通ナルカ此種ノ反袁運動ニ對シ我國民間ノ有志ニシテ之ニ同情シ金品ヲ与ヘテ之ヲ援助スルモノアラハ帝國政府ハ之ヲ默認シ尚進ンデ嚴ニ其行動ノ統一ヲ計ル為メ政府ハ其ノ黒幕トナリテ之レカ糸ヲ引カントス從テ本邦人ニシテ以上ノ如ク金品ヲ以テ援助セントスル者ハ勿論其他ノ方法ヲ以テ該運動ヲ援助スル者ニ對シテハ之ヲ默認スルコトト致度但シ右關係以外ノ輕拳盲動者ニ對シテハ嚴ニ取締ヲ要スルコトハ勿論ナリ尤モ右ノ者ト雖モ之カ処分ニ付テハ可成正式ノ在留禁止処分ヲ避ケラルル様致度シ

二 連水篤次郎及肅親王間契約書寫

例ノ宗社党青柳予備大尉以下八名肅親王第七子ヲ伴ヒ二十八日当地ヲ經テ蒙古巴布札布ノ下ニ向ヘリ成効ノ望未タ全然確実ト云ヒ難キモ今ノ所有望ナリ行動開始ハ甘ク運ンテ四月二十日以後カト察セラルル委細書面

註 本電報寫三月三十一日參謀本部ヨリ接受

(附記一)

肅親王ヨリ大倉喜八郎宛書寫

極秘

覺書

肅親王ハ男爵大倉喜八郎君ガ義金ニ応セラレタルヲ感謝シ他日事成ルノ曉ニ於テハ滿洲吉林省及奉天省内松花江及其支流々域ノ民有ニアラザル森林ノ株式及流材ニ對スル各種ノ租金徵收等ノ事業ヲ大倉男爵又ハ其後繼者ト合弁事業トシ其經營一切ヲ大倉男爵ニ委任スルコトヲ確約ス

大正五年三月 日

肅親王(印)

男爵大倉喜八郎君

(附記二)

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八五八 八五九
速水篤次郎爾親王間契約書写

極秘

契約書

速水篤次郎(以下単ニ甲ト称ス)ト爾親王(以下単ニ乙ト称ス)トノ間ニ左ノ契約ヲナス

第一条 甲ハ乙ニ日本貨金壹百万円ヲ貸与ス

第二条 乙ハ前記借入金ノ担保トシテ本書ニ添附セル別紙

目録ノ土地、山林、牧場、鉾山、家屋、水利等一切ヲ提供スルモノトス

第叁条 乙ハ甲ニ金利トシテ年七朱(百分ノ七)ノ割合ヲ以テ借入レノ日ヨリ起算シ一ヶ年毎ニ之ヲ仕払フモノトス

第四条 乙ハ本書調印ノ日ヨリ二ヶ年後ニ全金額ヲ返済スルモノトス

但シ事情ニヨリ双方協議ノ上返済時期ヲ伸縮スルコトヲ得ルモノトス

第五条 本契約書ハ正副二通ヲ作成シ当事者各一通ヲ保有シ証トス

貸主 速水篤次郎

中止方ニ付電稟ノ件

第七八号

山内領事發往電第二七号末段ニ関シ伊集院大使ハ本官ニ対シ今回鮮滿地方ヲ經由シ各方面ノ人々トモ会談シ当方面ノ狀況ヲ觀察スルニ浅慮無謀ナル本邦人浪人ノ一派ハ南滿洲ノ純然タル我勢力範圍内ニ於テ地方の小暴動ヲ起サント密ニ企テ居ルカ如クナルカ其計画ナルモノヲ洩レ聞クニ極メテ不用意ニシテ其目的モ無意義ナル如ク解セラル今仮ニ我官憲ニ於テ此種陰謀ヲ暗々裡ニ援助若クハ默認スルトスルモ成効覺束ナキハ勿論過去ノ実績ニ顧ミ再ヒ同様ノ失敗ヲ繰リ返スニ過キサルヘク惹イテ列國ノ疑惑ヲ招クノミナラス却テ衰世凱ニ妥協ノ口実ヲ与ヘ南北ノ握手ヲ促進スルノ結果トナル虞アリ旁々大局上甚タ面白カラスト思考セラルルニ付此種ノ計画ヲ未然ニ中止セシムル様御取計方御考慮ヲ仰ク云々ノ旨閣下ヘ電稟方申残サレタリ
在支公使ヘ転電セリ

八六〇 四月五日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

在滿我浪人組力革命軍ト合シ北京攻撃計画ヲ

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八六〇

八五六

借主 爾親王

大正五年三月 日

添付書類 一、担保品目録 壹通

一、乙ノ委任狀ハ甲ノ保有スル契約書ニ添付ス

八五八 三月三十一日

田中參謀次長ヨリ
関東都督府西川參謀長宛(電報)

土井大佐担任事業ハ參謀本部ノ指示ヲ待ツテ

開始スヘキ旨訓令ノ件

土井大佐ノ担任スル事業ハ支那全般ノ大勢ノ推移ト密接ノ關係ヲ有ス若シ南方ノ狀況ト適切ニ照応セサルトキハ却テ帝國ノ政策ヲ阻害スヘキヲ以テ事業ノ準備ヲ整ヘタル後モ其実施ハ当部ノ指示ヲ待チテ開始スルコトニスヘシ又各方面ノ指揮官ヲ召集スル如キハ避クル能ハサレトモ多人數ヲ行動セシムルハ衆目ヲ惹クノ不利アルヲ以テ之ヲ避ケシメラルヘシ

八五九 四月二日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南滿洲ニ於ケル本邦人浪人ノ小暴動計画未然

立テ居ル旨ノ風評アルニ付請訓ノ件

第八四号

極秘

当地市井ノ間ニハ浪人組ハ愈々四月十五日前後ヲ期シ遼陽本溪湖等ニ於テ事ヲ挙ケ奉天ヲ衝キ長驅山海關ヲ陥レ天津ニ於テ山東方面ノ革命軍ト合シ北京ヲ攻撃スル作戦計画ヲ立テ居ル旨ノ風評アル処右風評カ何ノ辺迄事實ナルヤハ確ナラサルモ土井大佐ノ談トシテ間接ニ聞込ミタル所其他都督府參謀ノ言等ヲ彼此照合スルニ右ニ類似ノ計画アルコトハ疑ナキモノト認メラル元來此種計画ハ予定ノ筋書通り好都合ニ取運フコト稀有ナルニ今回ノ計画ハ其内容ヲ聞知セル鎌田原口等サヘモ異口同音ニ其成効ヲ危ミ居ル有様ナルカ若シ果シテ右計画カ徒ラニ地方ヲ騒カス程度ニ止マランカ支那官憲ハ得タリ賢シト日本人ノ仕事ナルコトヲ吹聴シ以テ支那官民ノ排袁思想ヲ転シテ本邦ニ向ハシムルト共ニ在留外國人ヲ刺戟シテ面倒ナル關係ヲ惹起スニ努ムヘキハ想像ニ余アリ斯クテハ往電第八二号ノ如キ支那兵ノ出動モ中止セシムルノミナラス往電第七七号ノ陰謀モ頓挫スルニ至ルヘク俗ニ云フ虻蜂取ラストナル虞ナキカト憂慮セラル就テハ此際何トカシテ右計ヲ我勢力ノ色彩薄キ地方ニ移ス

八五七

カ已ムヲ得サレハ往電第七七号ノ計画進捗ノ模様ヲ待チテ、徐ロニ実行ニ取掛ラシムル様枉ケテ御配慮ヲ仰クコト相叶フ間敷クヤ今日ニ差迫リテハ最早致方ナカルヘシト雖將又叙上ノ点ハ総テ御氣附ノコトナルヘシトハ存スルモ痛心ノ余リ卑見申上ク尚本郷師団長藤井守備隊司令官ヲ初メ当方面ノ有力ナル官民モ同様ノ意見ナリ

八六一 四月六日 石井外務大臣ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛(電報)

在滿我浪人等ノ北京攻撃計画ハ嚴重ニ取締ル
様回訓ノ件

第四四号 極秘 至急

貴電第八四号ニ関シ当方ノ趣旨ハ曩ニ森田領事ヲシテ伝達セシメタル通ニシテ風説ノ如キ計画ハ当方及參謀本部ニ於テ何等関知セサル所ナリ右ハ畢竟誇張ノ流言ニ過ギスト思考スルモ万一斯ル統一ナキ計画ヲ企ツルモノアルニ於テハ大局上甚々望マシカラサルハ勿論ノ義ナルニ付往電第三四号ヲモ御参照ノ上可然御取締相成度シ
尚本件ニ関シ関東都督ニ対シテモ同様嚴重取締方電訓シタルニ付御合アリ度シ

右貴電第八四号ト共ニ公使及在滿各領事ヘ転電アリ度シ

八六二 四月六日 石井外務大臣ヨリ
中村関東都督宛(電報)

在滿我浪人組及革命軍ノ北京攻撃計画ニ対シ
嚴重取締方訓令ノ件

第三八号 極秘 至急

在奉天矢田總領事代理來電ニ依レバ奉天地方ニハ浪人組ハ愈々四月十五日前後ヲ期シテ遼陽本溪湖等ニ於テ事ヲ挙ケ奉天ヲ衝キ長驅山海關ヲ陷レ天津ニ於テ山東方面ノ革命軍ト合シ北京ヲ攻撃スル作戰計画ヲ立テ居ルトノ風評專ラナル趣ノ処右ハ当方及參謀本部ニ於テ何等関知セサル処ニシテ畢竟誇張ノ流言ニ過ギスト思考スルモ万一斯ル統一ナキ計画ヲ企ツル者アルニ於テハ大局上甚々望マシカラサルハ勿論ノ義ナルニ付往電第二八号ヲモ御参照ノ上彼等ニ対シ嚴重取締方勵行相成度シ

八六三 四月六日 田中參謀次長ヨリ
関東都督府西川參謀長宛(電報)

在滿我浪人組及革命軍ノ北京攻撃計画ノ風評
アルニ付土井大佐等ニ注意アリタキ件

矢田領事ノ報ニ依レハ浪人組ハ愈々來ル十五日前後ヲ期シテ遼陽本溪湖等ニ於テ事ヲ挙ケ奉天ヲ衝キ長驅山海關ヲ陷レ天津ニ於テ山東方面ノ革命軍ト合シ北京ヲ攻撃スル作戰計画ヲ立テ居ル旨ノ風評アリト勿論無責任者ノ口ヨリ出テタル風評ト認メラルルモ念ノ為通報ス又貴官ト本郷中將、藤井少將トノ間ニ意志ノ疏通ヲ欠キアルニアラサルカノ懸念アリ土井其他ノ関係者ニ注意セラレタシ

註 本電報ヲ四月八日參謀本部ヨリ接受

八六四 四月七日 中村関東都督ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

在滿我浪人組ノ輕拳妄動ハ嚴重取締居ル旨報
告ノ件

秘第三三号 極秘

貴電第三八号矢田領事ヨリノ報告ニ付御申越了承各地ニ於テ今ニモ事ヲ挙クルカ如キ風評ハアレトモ過日參謀本部ヨリ何分ノ指令ヲ待ツヘシトノ通報アリ故ニ統一ナキ輕拳妄動ハ大局上面白カラサレハ十分之ヲ戒メ嚴重取締居レリ御承知ヲ請フ而シテ近頃ニ至リ大連奉天其他各地トモ自然人ノ出入リ頻繁トナリ秘密モ洩レ易ク從ツテ各種ノ風評ヲ生

スル次第ナリ是又御承知置ヲ請フ

八六五 四月七日 関東都督府西川參謀長ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

在滿我浪人等ノ北京攻撃計画風評ノ件

矢田領事ノ報ハ内地人ノ通信ニ基クモノノ如ク当地ニ於テハ斯ル計画アルヲ聞カズ。小官ト本郷中將、藤井少將トノ間ニ何等意志ノ疏通ヲ欠キアルヲ感ゼズ御安心ヲ乞フ委細文

八六六 四月八日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

時局ニ関スル張作霖ノ鎌田弥助ヘノ談話報告
ノ件

第九〇号

往電第七七号ニ関シ四月七日鎌田ガ張作霖ニ面会シタル際張ハ北京ヨリ広東獨立ノ電報來レリ何レ日本ハ居留民保護ヲ名トシテ軍艦ヲ派スヘク日本ハ飽迄衰世凱ノ退位ヲ迫ルトノコトナレハ衰ノ地位モ危ク從テ自分モ立場ニ苦ム次第ナルカ一方ニテハ又当地ハ北京ヨリ武器又ハ軍費ヲ持行カレ何カノ時ニハ真ニ困却スヘシトコボシ或ハ日本ノ御助力

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八六七 八六八 八六九
ヲ請フコトアルヘキヤモ知レスト口走り頗ル悲觀のニ興奮セル様ナリシト其節于冲漠ハ鎌田ニ対シ東三省獨立スルトキハ日本ハ干涉ヲナシハセスヤ杯ト質問シタル由尙鎌田ハ四月九日北京ニ赴ク筈
公使ヘ転電セリ

八六七 四月九日 石井外務大臣ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛(電報)

時局ニ鑑ミ張作霖ヲシテ我方ニ倚賴セシムル様仕向ケラレタキ件

第四六号

貴電第九〇号ニ関シ張作霖ノ態度如何ハ東三省今後ノ形勢ニ影響スルコト重大ニシテ最注意ヲ要スルモノト思考セラ
ルルニ付貴官ハ可然方法ヲ以テ出来得ル限り同人ト密接ナル接触ヲ保チ同人ヲシテ此際日本ニ倚賴スルノ外他ニ方途ナキヲ漸次ニ感得セシムル様仕向ケラレ度シ

八六八 四月十日 田中參謀次長ヨリ
關東都督府西川參謀長宛(電報)

張作霖ノ蹶起ヲ懲通スヘキ旨訓令ノ件

貴官並領事等ノ報告ニ依レハ張作霖ノ意漸ク動ケルモノノ

倫ニ向ヘリ哈爾哈ハ海拉爾ノ南騎馬二日旅程ニ在リ「パプ
チャプ」ハ哈爾哈王府附近ニ在リ兵二千ヲ擁シ常ニ部下ヲ海拉爾ニ派遣シ糧食等ヲ購買セシメツツアリ

八七〇 四月十三日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ノ蹶起ヲ積極的ニ懲通スルハ妥當ト認

メザル旨等田村關東都督府參謀ヨリ都督ノ内

命トシテ申出ノ件

第一〇五号 極秘

四月十二日都督府參謀田村大佐都督ノ内命ヲ帶ヒテ本官ヲ
來訪シ土井等ノ計畫ハ其筋ノ命ニ依リ暫ク延期スルコトト
ナリタルモ滿蒙ニ於テ該団体カ事ヲ挙クルコトハ既定ノ事
実トナリ居レルカ一方張作霖ハ近頃我方ヲ頼リ來ラントス
ル意向アル模様ニテ現ニ鎌田ヲ通シ西川參謀長ニ会见ヲ申
出タル様ノ次第ナル処此際本邦側ヨリ積極的ニ彼ヲ操縦セ
ントスルハ彼ト衰トノ關係竝彼自身ノ性格ニ顧ミ極メテ危
険ナル方法ナルノミナラス時機來レハ我ヨリ何等手ヲ下サ
ストモ当然彼ハ自ラ獨立運動ヲ起スヘク又起サ、ルヲ得サ
ル地位ニ立ツモノト認メラルルヲ以テ都督側ニテハ右申出

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八七〇 八七一

八六〇

如シ就テハ予定計畫實施ニ先チ此際今一步ヲ進メ日本ノ真
意ヲ仄カシ彼ヲシテ獨立セシムルコト捷徑ニシテ且穩當ナ
リト信ス依テ貴官ハ機會ヲ作り張ト会见シ貴官ノ意見トシ
テ彼ノ蹶起ヲ懲通スヘシ其際張自身ノ將來ノ安全ヲ保障ス
ルハ勿論兵器彈藥及軍資金供給ニ関シテモ尽力ヲ辭セサル
旨ヲ言明シテ差支ナシ但衰ニ密告セラルコトアルヘキヲ
予期シ少クモ張自身ノ發意ニ依ル如ク表面ヲ繕ヒ得ルノ余
地ヲ存スヘシ又特ニ邦人間ニ於テモ必要避ク可ラサル者ノ
外絶対ニ秘密ヲ確保スルヲ要ス尚本件ニ付テハ在奉天矢田
總領事代理トモ十分打合セラ遂クルコト必要ナリ

八六九 四月十一日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

若林等本邦人ハ中国人及蒙古人ヲ率イテ哈爾

哈ニ、又宮里一行ハ庫倫ニ向ヒタル件

第三三三号 齋々哈爾二瓶領事ヨリ

第五号

海拉爾居留民會長ノ報告ニ拠レハ若林、大山、齋藤、安藤
(不明)、赤松及黒木ト称スル本邦人等ハ支那人及蒙古人数
名ヲ率キテ先般哈爾哈ニ向ヒ尚宮里ノ一行ハ哈克圖經由庫

ニテモ応セサリシ次第ナルニ付貴方ニ於テ至急作霖ニ対シ
進シテ何等手ヲ附クルカ如キコトナキ様願ヒタシトノ旨ヲ
申出タリ本官ハ都督ノ心配セラルル点ハ本官モ全然同感ナ
ル旨ヲ述ヘ但シ作霖カ東三省ノ中心ニ武力ヲ擁シテ蟠踞セ
ル以上ハ当方面ニ特殊ノ利害關係ヲ有スル帝國政府トシテ
ハ此時局ニ際シ特ニ彼ノ態度ニ深大ノ注意ヲ払ハサルヲ得
サルヲ以テ此ノ意味ニテ間接ニ彼ト接觸ヲ保チ其行動ヲ注
視スルト共ニ他面彼ヲシテ我ニ倚ラサレハ何事モ為シ能ハ
サルコトヲ痛切ニ感得セシメ置クコトハ我優越權ノ關係上
当然且必要ノ措置ト思考セラレ現ニ右ノ趣旨ニテ訓令ニ接
シ居ル次第ナルモ夫レ以上ニ立入りテ關係シ衰世凱ニ利用
セラルル虞アル不謹慎ノ措置ヲ執ルカ如キコトハ断シテ之
ナキ旨ヲ答ヘ尤モ排衰思想ハ一般ノ風潮ニシテ此ノ地方ノ
有力ナル支那人中ニハ作霖ヲ擁立シテ獨立ヲ宣言セシメン
トスル画策アル模様ナレハ之ヲ阻止スルカ如キ措置モ亦執
ラサルヘキニ付其辺モ御含置アリタシト附言シ置ケリ為念
申上ク

八七一 四月十三日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

八六一

中国時局ニ関シ張作霖ノ横山満鉄公所員ニ対

スル談話報告ノ件

第一〇八号

往電第一〇七号ニ関シ四月十三日張作霖カ所用ヲ以テ満鉄公所員横山ヲ招キタル際横山カ作霖トナセル談話ノ要領左ノ通り

先ツ南方革命軍ノ模様ニ付尋ネタルニ独立ヲ宣言セル省ハ増加シタルモ未タ基礎固カラサルカ如ク現ニ妥協モ進行中ナレハ暫ク模様ヲ見ザレハ何トモ判断付カスト述ヘ張師長独立ノ意志アリトノ風説アリト切込ミタルニ少シク狼狽ノ体ニテ何人ヨリ聞キタルヤト反問シサルコトハ断シテナシ何レニセヨ此所二三ヶ月ノ間ニハ必ス南方ノ形勢定マルヘク要スルニ其ノ時ノコトナリ南方南方ト繰返シ更ニ東三省方面ニモ革命党入込ミタリトノ風説アリ如何ト問ヒタルニ革命党ヤラ宗社党ヤラ続々入込ミ内ニハ日本人四五十名アリト答ヘタルニ付日本人ノ関係者トハ誤聞ナルヘシト云ヒタルニ大連ニモ某々アリ目前ノ三階ニモ(附屬地ノ満鉄ノ貨屋ヲ指ス)現ニ川崎武、松本菊熊等カ毎日出入リシ居ルニ非ズヤト詳細内幕ヲ承知シ居ルカ如キ口吻ヲ洩ラシ佯令

彼等カ五百六百ノ不良ノ徒ヲ集ムルトモ満鉄都督府ニテ援助セサル限り討伐ハ容易ナリ要スルニ自分ハ虚偽ノ報告ヲナス様ナル密偵ハ使用シ居ラズト得意氣ニ嘯ケル由ナリ前電原口側ノ情報ト対照シ多少御参考トモ相成ルヘシト存シ電報ス

在支公使ヘ転電セリ

八七二 四月十五日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ノ独立ニ付袁金鎧ノ談話報告ノ件

第一一一号

往電第一〇九号ニ関シ四月十三日中島、一ノ宮、原口等袁金鎧ヲ晚餐ニ招待シ(曾有、張煥柏モ列席)席上種々時事問題ヲ談シ先ツ袁金鎧ト張作霖トノ關係ニ付質問シ当初第一革命ノ際將軍趙爾巽作霖ヲ当地ニ招キタル節作霖ハ未タ文官竝郷紳ノ間ニ勢力ナク將軍トノ關係モ円滑ナラサリシカ自分ハ恰モ当地治安ノ維持ヲ依託サレ尽力中ナリシヲ以テ作霖ノ為大ニ取成シタルコトアリ爾來作霖ト自分トノ關係ハ俄ニ親密トナレリト云ヒ作霖ト馮麟閣トノ關係ニ付テハ兩人ハ從來余リ親密ナラサルヤノ外觀アリシカ近頃段

將軍カ馮ノ部下一旅ノ出動ヲ令シ之ヲ補充スル為周偕侯ニ新ニ一旅ヲ編成セシメントスル計畫ヲ立テタルヲ見テ馮ト自己ノ勢力ヲ殺ク策トナシ大ニ不平アリ一方作霖ハ中央政府ノ命令タル彈藥ノ送附ニ付反對ヲ唱ヘタルニ拘ハラス段カ結局貯蔵ノ半額ヲ北京ヘ送りタルニ對シ快カラス思ヒ居ル際トテ馮ニ同情シ且兩者トモ本省出身者ニシテ其ノ經歷ヲ同ウスル關係上利害一致シ最近極メテ密接ナル關係ヲ有スルニ至レリト述ヘ呉景濂ニ付テハ当地ニ來ルヤ上海ニ赴クヤ未タ不明ナリト述ヘタルニ付呉ヲ招キテ事ヲ共ニセラルルコト如何ト問ヒタルニ其レモ可ナレトモト答ヘ呉ノ來ルコトヲ余リ喜ハサル模様ナリシト当夜ハ其辺ニテ時事談ヲ打切り翌十四日夜再ヒ会食シタルニ(ハ曾欠席)其ノ夜ハ大分打解ケテ談話シ自分ハ帝政反對ヲ唱ヘテ參政ヲ辭シテヨリ以來袁政府ヨリ常ニ猜疑ノ眼ヲ以テ行動ヲ注目シ居ルヲ以テ門ヲ閉シ客ヲ謝シ務メテ時事ヲ談スルヲ避ケ居ルカ事当省ノ利害問題ニ關シテハ素ヨリ一臂ノ力ヲ客ムモノニ非スト語リタルニ付近來張作霖獨立ノ風評アリ如何ト尋ネタル処作霖ニ獨立ノ意アルヤ否ハ知ラザルモ獨立ハ武力ヲ有スルモノナラサレハ為ス能ハス自分カ張師長ノ地位ニ

在ルト見ハ今ハ獨立ノ時機ト信スト答ヘタルニ付更ニ漸次話頭ヲ進メ獨立計畫ニ付貴下ニ相談アリタルコトハナキヤト切込ミタルニ茲迄申シタル次第ナレハ事實ヲ申上ケンニ實ハ最近張作霖ヨリ自分ハ袁世凱トモ接近シ居リ去リトテ南方ニ對シテ敵意ヲ有スル訳ニハアラサルヲ以テ第一革命ノ例ニ倣ヒ中立ノ意味ノ獨立ヲ為サント思フカ如何ト相談ヲ受ケタルニ依リ我々同志会合シ三日間密議ヲ擬シタル上自分ハ決議ノ結果ヲ齎シテ張ニ面会シ今日ハ第一革命ノ際トハ事情異ルヲ以テ獨立スルカセサルカノ二ツヨリ外途ナシト述ヘタルニ張ハ案ヲ打チテ真ニ然リト同意シ馮トモ打合セ愈々決行スルコトナリタリト語リタルニ付予テ本官ヨリ其旨ヲ含マセ居リタルニ依リ中島ハ貴電第四六号御訓令ノ趣旨ニ基キ日本側トノ關係ニ言及シタルニ袁曰ク自分等ハ素ヨリ日本政府ノ意思ヲ尊重シ居リ現ニ本計畫ニ付テモ日本領事ノ許ニ人ヲ派シ万事相談ノ上ニテ手筈ヲ定ムル考ニテ二三日前自分ヨリ于沖漢ニ對シ帰奉ヲ促シ置キタル次第ナリ何レ同人ヲシテ日本領事トノ間ニ意思疏通ノ任ニ當ラシムル筈ナリト述ヘ愈々断行スルハ今後十五日以内ナリヘシト断言シタル由ナリ尚其節第一革命ノ際日本ガ清朝

ヲ援助スレハ第二革命モ起ラス今回ノ騒乱モナク四億ノ民ハ平和ヲ享受シタリシナランニ何故ニ日本ハ積極的ニ援助スルコトヲ避ケラレタルヤ自分ハ了解ニ苦シム云々ト述ヘ聞ク者ヲシテ或ハ東三省ノ独立ニ際シテ暗ニ日本ノ援助ヲ期待シ居ルニハアラサルカトノ疑ヲ抱カシムル様ノ口吻アリシト尚今明日中ニ袁金鎧ニ於テ返礼ノ晚餐ヲナス筈ナレハ其辺ニ付更ニ確カメシムル筈不取敢電報ス公使ヘ転電セリ

註 矢田總領事代理兼外務大臣宛電報第一〇九号ハ張作霖ノ獨立宣言說ニ関スル件ナリ

八七三 四月十六日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

都督府側ハ張作霖ノ獨立ニ反对ナル旨報告並
時局ニ関シ我方ノ措置振ニ付請訓ノ件

第一一四号 極秘

往電一一一号ニ関シ土井ノ參謀小磯少佐情況視察ノタメ先日來奉中ナリシカ中島ノ計ヒニテ旧友某トシテ同電ノ会合ニ列席セシメタルニ依リ同少佐ヨリ会見ノ模様ヲ在旅順ノ土井ニ報告シタルモノト見ヘ四月十五日土井ヨリ小磯ニ

ニ於テ關係支那人廿余名支那官憲ニ捕縛セラレタル事集モアリ今後モ計畫進捗スルニ從ヒ各方面ニテ続々取押ヘラルル者アルヘク危險ノ程度ヲ言ヘハ往電第一一一一號ノ計畫ノ方寧ロ遙カニ安全ニシテ又作霖ノ獨立モ我ト没交渉ナラサルハ袁金鎧ノ談話ニ依ルモ明白ニシテ何ノ程度迄我ニ頼ラシムルカハ畢竟今後我方ノ措置振如何ニ依ル問題ナレハ当初ノ御方針如何ハ承知セサルモ要スルニ此際袁金鎧一派ノ計畫ハ阻止スルコトハ殆ント困難ト存セラルルニ付本官ニ於テハ依然從來ノ方針ニテ暫ク模様ヲ見タシト愚考スルモ右差支ナキヤ何分ノ義御電訓ヲ請フ尤モ一面段芝貴ハ最近辣腕ヲ振ヒ吳俊陞馮德麟張作霖ヲ取纏メ往電第一一一一號張作霖当初ノ案ノ如キ中立的獨立ノ計畫アリトノ情報アリ出処極メテ疑ハシキモ其辺ニ対スル警戒モ常ニ怠ラサル様心掛ケ居レリ尚本電報ハ迷惑スルモノアルニ付陸軍側ヘ御示ナキ様願度シ

八七四 四月十七日

石井外務大臣ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛(電報)

張作霖ノ計畫ニ関シ從來ノ方針通ニテ措置方

回訓ノ件

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八七四 八七五

對シ該計畫ノ進捗ヲ阻止スヘキ旨ノ電報アリ小磯ハ昨夜旅順ニ歸リタルカ右土井ノ電報ヲ往電第一〇五号中村都督ノ申出ト對照推察スルニ旅順側ニテハ土井一派準備中ノ計畫ヲ実行スルタメニ張作霖ヲ内部ヨリ動カシテ獨立セシムルヲ欲セサルヤニ了解セラルル所其ノ理由トスル所ハ(一)張作霖一派ハ人物信賴シ難ク万一ノ際寢返リヲ打タルル危險アルコト(二)獨立ノ曉我ニ於テ活殺ノ權ヲ掌握スルコトヲ得サル虞アルコト(三)革命一派ノ手ニ依リテ作霖ヲ擁立スルコトカ当初ノ方針ニ添ハサルコト(四)折角金ヲ投シ人ヲ集メテ畫策中ノ計畫カ作霖ニ先セラレ時機ヲ失スルコトアルヲ好マサルコト等ノ点ニアルヘシト推断セラルルニ本官ノ集メタル情報ヲ綜合スルニ右土井一派ノ計畫ナルモノハ大体五系統ニ分レ(一)内蒙古方面ノ「バブチャブ」(二)鄭家屯方面吳俊陞ノ部下陳榮昌、金壽山ノ遺子一派(三)謝某一派(四)大孤山方面ノ一派(五)興京方面ノ一派ナルカ如ク廣ク各地方ニ涉リ居ル結果關係者ノ種類モ雜駁ニシテ節制ヲ欠キ統一並ニ秘密ヲ保ツコト困難ナルヘク現ニ支那側ニテ右計畫ヲ大体承知シ居ル模様アルコトハ往電第一〇八号作霖ノ談話ニ依ルモ略ホ想像セラルル所ナルノミナラス最近海城附近

第四九号

貴電第一一四号ニ関シ貴官ハ引續キ往電第四六号ノ趣旨ニ從ヒ措置サル可ク此際張ノ計畫ヲ阻止サルルニ及バズ

八七五 四月二十日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ヨリノ招請ヲ受ケタル西川都督府參謀
長本官ノ意見ヲ承知スル為來訪ノ件

第一三四号

往電第一三三三号ニ関シ只今西川參謀長本官ヲ來訪シ于沖漠ヨリ平服ニテ至急來訪アリタシトノ電報ニ接シタルト張作霖ヨリ如何ナル話ヲ持出スヘキヤ又回答振ニ付本官ノ意見ヲ承知シ置キタシトノコトナリシヲ以テ本官ハ最近ノ形勢ヲ略述シ作霖ハ多分今後ノ方針ヲ定ムルタメ先ツ以テ日本政府ノ意嚮ヲ確メントスルモノナルヘシト愚考セラルル旨ヲ陳ヘタルニ同參謀長モ多分其様ノコトナルヘク自分ハ何等「コムミット」スルコトナク不得要領ノ挨拶ヲナシ成ルヘク先方ノ意思ヲ探ルヘシト謂ハレタルニ付本官ハ今日最も緊要ナルハ彼ト袁世凱トノ關係如何ノ点ニアレハ其辺御如才ナク探知アリタシト述ヘ置ケリ会谈ノ結果ハ追テ電報

スヘシ尚其節西川少將ハ日本側ハ支那側ヲ致サントシテ却テ致サレ居ル形勢アレハ矢田總領事ニ注意セヨトノ都督來電ヲ示シ心当リアリヤトノコトニ付本官ハ右ハ多分中島、原口一派ノコトナルヘク果シテ致サレ居ルヤ否ヤハ見ルルノ判斷ニ任セムモ仮リニ彼等カ致サレ居ルトスルモ責任ナキ浪人等ノ仕事ニテ帝國領事ノ関知スル所ニアラサレハ御心配ニ及ハサルヘシト答ヘ置ケリ(二十日午前十二時)

八七六 四月二十日 在奉天矢田總領事代理ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

最近奉天ニ於ケル反袁策ニ対スル總統府側
善処並広東紛擾ニ基キ同府側ノ態度一変ノ旨
于冲漢内談ノ件

第一三七号

在支公使ヨリ左ノ通、第一四号外務大臣ヘ転電アリタシ
第三二八号

四月十九日于冲漢ヲ山海関迄見送り同地ヨリ引還シ來レル鎌田カ車中ニテ于ヨリ聞得タル所ナリトテ内報セル所ニ依レハ最近奉天ニ於テ画策セル計画ハ悉ク段芝貴ノ探知スル所トナリ裏面ニ日本人ノ之ニ参与シ居ルコトモ逐一嗅キ付

希望通り奉天將軍ノ榮職ヲ贏チ得タル張作霖ハ早晚袁側ニ丸メラレ追テハ裏面ニ於ケル日本人活動ノ真相ヲ報告スルコトナルヘシト鎌田ハ懸念ニ耐ヘサル旨ヲ語レリ尚鎌田カ于冲漢ヨリ承知セル所ニ依レハ總統府側ハ数日前迄ハ痛ク時局ノ前途ヲ悲觀シ袁モ漸次ニ退位ノ已ムナキヲ自覺シツツアルモノト認メラルル形迹アリタルモ此兩三日來其態度稍々一變シ總統府側ノ腰カ俄カニ強クナリタル模様アリトノコトニテ于ハ之レヲ広東ニ於ケル不定狀態ニ歸シ總統府ニ於テハ広東最近ノ紛擾ハ尚乘スヘキノ余地アリ此際適當ノ謀計ヲ施サハ大勢ハ逆転セシムルニ一縷ノ望アルヘキヲ看取シタル為ナラント觀察シ奉天事件ト云ヒ彼此綜合シテ考フルトキハ何等大勢挽回ノタメ最後ノ一大奮闘ヲ試ムル兆候トモ察セラルル節ナキニアラスト語レル由

八七七 四月二十日 在奉天矢田總領事代理ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

東三省ノ治安ニ助力アリタキ旨于冲漢ヨリ西
川都督府參謀長ニ懇請ノ件

第一三八号

往電第一三四号ニ関シ西川參謀長ハ先于冲漢ノ需ニ応シ滿

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八七七

ケ段ハ該計画ヲ宗社党革命党ノ仕業ニ歸シ現ニ鉄良ノ如キハ窃カニ大連ニ入込ミ其計画ニ与カリ居レルモノト信スルモノノ如ク而シテ是等詳細ノ顛末ヲ齎シタル周偕侯ハ奉天ヨリ北京ニ急行シ十七日朝當地ニ着スルヤ否ヤ即刻段永彬ト俱ニ袁世凱ト長時間ノ会见ヲ遂ケ奉天ニ於ケル画策ヲ洩ナク報告スルト同時ニ段ノ意見ヲモ取次キ種々凝議ノ結果愈々右計画ノ裏ヲ欠キ未タ事端ノ発セサルニ先ン進ンテ張作霖ヲ奉天將軍護理ニ任命スルノ策ヲ決定シ時ヲ移サス奉天ニテ之ヲ実行スルコトト為シタル次第ニシテ右ハ十七日夕于冲漢カ段永彬ヲ訪問シタル節段ノ口振リニ依リ綜合判斷セル所ナリト尚右訪問ノ節段ハ種々意味有リケナル嫌味ノ数々ヲ述ヘタル上張ノ奉天將軍ハ實際荷カ勝チ過クルヤノ感モ有之有力ナル補佐ヲ要スル次第第二付貴下(于)ヲ巡按使ニ任命スルノ内議モ有之所奉天ハ北方重要ノ地ナレハ局ニ当ルモノハ最モ慎重ノ態度ヲ取ルヲ必要トシ斷シテ某國ノ奴隸トナルカ如キ不心得アルヘカラスト述ヘ暗ニ于等カ日本ノ手先キトナリ盲動スルノ不可ナルヲ諷シタル由ナリ右ニ依リ案スルニ段芝貴カ奉天ニ於ケル最近ノ画策ヲ細大トナク探知シ中央政府ニ報告シタルハ勿論予テヨリノ

鉄公所ニ於テ于ニ面会シタルニ于ハ云ヒ出シ惡キ様子ニテ暫ク躊躇シタル末今回張作霖カ將軍代理トナリタルニ付滿洲ノ治安維持ニ付何分ノ助力ヲ仰キタキ旨ヲ申出タル由ニテ同參謀ハ然ル可ク挨拶ヲナシタル後種々質問ヲナシタルニ對シ自分ハ鞍山站ノ件アレハ今回ハ任官セスト云ヒ段ノ去リタルハ北京ニテ王士珍ノ事務ヲ補助スル必要アリタルト近頃彼ヲ狙ヘル革命党入込ミ一身上ノ危険アリシカ故ナリト述ヘ君等カ追出シタルニ非ヤト切込ミタルニ頗ル曖昧ニ言葉ヲ濁シタリト次テ于ノ通訳ニテ張ニ面会シタルニ張ハ頗ル得意ノ態ニテ三ヶ月後ニハ本任ノ將軍トナルヘク何レ閑ヲ得テ中村都督ヲ訪問スヘシ杯ト述ヘ就テハ自分ハ今度重任ニ就キタルカ形勢モ未タ定マラサレハ成ルヘク人モ換ヘス現状ノ儘ニテ進ミタシト考ヘ馬交渉使ニモ留任シ貰フコトナリタリ但シ局面ノ變化ニ応シ何等措置スルヲ要スルトキハ改メテ御相談致スヘシト云ヒ自分ノ面目モアレハ東三省ノ治安ニ付テハ十分御助力ヲ請フト懇願シ從來馬賊カ鉄道附屬地ニ逃ケ込ミ支那側ニテモ討伐ニ苦シム旨ヲ訴ヘ近頃日本浪人統々入込ミ種々ノ言ヲ放チ不穩ノ計画ヲナシ居リ甚タ遺憾ナレハ之等ヲ充分取締ラレタクト述ヘ突

然爾親王ノ近状如何ト問ヒ彼ノ人ハ何モ出来ヌ人ニテ駄目ナリ寧ロ恭親王ノ方宜シカラン杯云ヒテ十分其間ノ消息ニ通シ居ルコトヲ仄カシ最後ニ段芝貴ヲ攻撃シ八十萬元ヲ持チ行カレタリ段ト云ヒ張元奇ト云ヒ他省ノ人カ来リテ金ヲ絞リテ持チ行クニハ閉口ナリト述ヘタル由ナルカ之ヲ要スルニ(北京ノ状況愈々望ナシト見極ハメ付ケハ其節ハ日本側ニ相談シテ態度ヲ決定スヘキモ当分ハ現状維持ニテ進ムヘケレハ兎ニ角自分ヲシテ將軍トシテノ好成績ヲ挙げシムル様御援助ヲ乞フ)ト云フ意味ノ話ト參謀長ハ解シタル由ナリ

八七八 四月二十一日

在本邦露國臨時代理大使ヨリ
日本外務省宛

東支鐵道ニ依ル日本提供ノ小銃輸送許可方露
國地方官憲ニ巴布札布ヨリ願出ノ旨通報ノ件

Confidential.

One of the Princes of Inner Mongolia called Babudjab took an active part in the vents connected with the declaration of independence of Outer Mongolia. Retiring before Chinese troops which were sent against him Babudjab took up his residence on the border of

the Barga-Province. From that place he started intercourse with several Japanese in Khailar and specially with a man called Miyazato, who recently has visited Ourga.

Actually Babudjab requested the Local Russian authorities the permission to transport by the Eastern Chinese Railway to Khailar 1000 rifles and 50,000 cartridges which some Japanese had forwarded for him to Changchun.

Under instructions of his Government the Russian Chargé d'Affaires has the honour with reference to the Art. IV of the secret agreement of 1910, to bring these facts to the knowledge of the Japanese Government.

註 右覽書ハ四月二十一日幣原外務次官ニ手交セラレタリ

八七九 四月二十二日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ハ張勳等ノ宣統帝復辟案ニ贊同ノ旨竝
右ニ対スル日本政府ノ意向承知シ度キ旨于冲
漢談話ニ付請訓ノ件

第一四四号 至急

四月二十一日夜于冲漢窃ニ菊池中佐ニ面会ヲ求メ先ツ往電

第一三八号張作霖ノ西川少將ニ依頼シタルト同様治安維持ニ付助力ヲ懇願シタルニ付菊池ハ成ル程二三日本浪人当地ニモ居ル様ナレトモ彼等ハ第一革命以来常ニ彼種ノ目論見ニ從事シ居リ之ニ衣食シ居ル輩ナルハ御承知ノ通りナルカ今回ハ幸日本官憲ノ取締行届キ居ル為メ事ナキヲ得ル次第ナリト答ヘ本官ヨリ注意シ置キタル処アリタレハ更ニ言ヲ更メ聞ク処ニ依レハ貴下ハ窃ニ西川參謀長ヲ招キ同様ノ申出ヲナサレタル由ナルカ地方治安ニ関スル申出ナレハ何故ニ帝國ノ代表者タル領事ニ公式ナリ非公式ナリニテ申出デラレサルヤ無用ノ小細工ヲ為サレタルニ付矢田領事ハ張將軍及貴下ニ対シ快ク思ヒ居ラズト信ズヘキ理由アリ斯クテハ貴方ノ為メ甚タ不利ナルヘシト警告シタルニ于ハ聊カ閉口ノ態ニテ辞ヲ尽シテ他意ナキコトヲ懇ヘテ本官ニ陳謝方ヲ懇願シ実ハ貴下(菊池)ニ面会ヲ願ヒタルハ西川參謀長ニ相談スル積リノ事件ナルカ作霖ノ許ニテ二三日来袁世凱ノ地位ニ付案觀悲觀ノ二派ニ別レ互ニ自說ヲ持シテ下ラサリシカ昨夜(二十日)作霖ハ矢張り袁ノ人物ノ傑出セル旨ヲ述ヘテ案觀論ヲ唱ヘ居リタル処ヘ張勳ノ許ヘ派遣セシ密使帰奉シ張勳馮國璋等主唱者トナリ宣統帝復辟案ヲ立テ作

霖ノ同意ヲ求メタル上之ヲ八將軍ニ回附シ同意ヲ得テ統一ヲ計ラントスル旨報告シタルカ作霖ハ直ニ贊同ニ決シ其旨特使ヲシテ通セシムル筈ナリ此際心配ナルハ日本政府ノ意向ナル処右復辟案ニ対シ日本政府ハ如何ナル考ヲ有セラルルヤ是非トモ承知致度次第ナリト述ヘタルニ付菊池ハ領事ニ議ルトモ外務省ハ十分貴下等ノ為ニ秘密ヲ守ルヘキニ付安心セラルヘク兎ニ角其ノ通領事ニ傳達スヘシト云ヒタルニ明日(二十二日)午後迄ニ何等回電ニ接スルヲ得ヘキヤトノコトナリシヲ以テ明日迄ニハ間ニ合ヒ兼ヌルヤモ知レザレドモ回答アリ次第領事ヨリ何レ時期ヲ指定シテ面会サル様取計フヘシト答ヘタル由ナリ就テハ右回答振リニ付御詮議ノ上至急何分ノ義御電訓ヲ請フ

八八〇 四月二十二日

石井外務大臣ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛(電報)

日本政府ハ中国内政ニ干渉スル意思ナキ旨回

訓ノ件

第五三号 至急

貴電第一四四号ニ関シ貴官ハ于冲漢ニ対シ帝國政府ニ於テハ何等野心ヲ有セス又支那ノ内政ニ干渉スルノ意志毫モ無

キニ付張作霖ニ於テハ日本政府ノ意向ニ対シ別段心配スル
ニ及ハス要ハ張ニ於テ日支兩國ノ關係上最善ト思料スル方
途ニ出ツルコトニアルヘキ旨答ヘラル、様致度シ

八八一 四月二十二日 石井外務大臣ヨリ
在長春山内領事宛(電報)

銃器彈藥ハ長春ニ在ルヤ否ヤ取調方訓令ノ件
第四五号

在本邦露国代理大使ヨリ大要別電第四六号ノ事実ニ対シ帝
国政府ノ注意ヲ促スヘキ旨本国政府ノ訓令ニ接シタル趣申
越シタルカ右末段所載ノ如キ銃器彈藥ハ陸軍側ノ取調ニ依
レハ貴地方面ニ行キ居ラサル筈ナリトノコトナル処類似ノ
品ナリトモ本件目的ノ為貴地ニ在ルモノナキヤ確メノ上電
報アリタシ

註 別電第四六号ハ前掲在本邦露国臨時代理大使寛書(八七八
文書)ノ要領ナリ

八八二 四月二十二日 石井外務大臣ヨリ
在齊々哈爾二瓶領事宛(電報)

巴布札布ニ対スル本邦人ノ行動ニ付取調方訓
令ノ件

第四号

在本邦露国代理大使ヨリ大要別電在長春領事宛第四六号ノ
趣旨本国政府ノ訓令ニ依リ申越シタルカ貴官管下ニ於ケル
巴布札布ニ対スル日本人ノ行動余リ露ニ行ハレ居ル如キコ
トナキヤ取調ノ上電報アリタシ

八八三 四月二十三日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ノ將軍代理任命及復辟案ニ同調ノ意向
等ニ関シ于冲漢來談ノ件

第一四七号

往電第一四四号ニ関シ四月二十二日于冲漢ヨリ本省ヨリ返
電ノ有無ニ拘ラス本官ヲ訪問致度旨菊池中佐ヲ通シ申出ア
リタルニ付差支ナキ旨ヲ答ヘタル処午後六時頃來訪シ張代
理將軍ハ就任後直ニ參上スヘキ筈ナレトモ取込ミ居リ其意
ヲ得ズ遺憾ニ堪ヘザルニ付不取敢自分ヲ特ニ日本領事ノ許
ニ遣ハシ敬意ヲ表ス云々ト作霖ノ名刺ヲ差出シテ至極鄭重
ナル挨拶ヲ為シタルニ付本官ハ先作霖ノ就任ヲ祝シ予テ貴
電第四六号末段御電訓ノ趣旨ニ基キ菊池中佐ヲシテ作霖ニ
云ハシメントシタル腹案ニ依リ滿洲ノ事態ヲ説述シ張代理

將軍ハ今迄ト異リ行政ノ首班ニ就カレタル次第ナレハ今後
施政ノ方針ヲ定メラルル上ニ於テ日本カ当地方ニ於テ何レ
ノ国ニモ比較シ難キ特殊優越ナル地位ヲ占ムル事実ヲ閑却
セラルルカ如キコトナキ様日支兩國ノ利益ノ為切ニ希望ス
ル旨伝達アリタシト述ヘタルニ于ハ耳ヲ傾ケテ聴取リ右ノ
点ハ勿論張代理將軍ニ於テモ十分承知シ居ルコトト存スル
モ其通り取次グヘシト答ヘタリ時恰モ貴電第五三号ニ接シ
タルニ付御訓令ノ趣旨ヲ口頭ヲ以テ伝ヘタルニ于ハ一句一
句細心ノ注意ヲ払ヒテ聴取リ暫ク瞑目沈思シタル後更ニ一
回初ヨリ繰返サセタル上能ク了解セリト述ヘ更ニ往電第一
四四号同様浪人ノ取締ヲ求メ夫レヨリ種々雑談ヲナシ北京
ノ模様ヲ語り袁世凱ノ惡辣手段(先月拱衛軍騷擾ノ首謀者
七十五名ヲ京漢線ニ乗セ行衛不明ナラシメタル件ヲ詳細ニ
語り)ヲ攻撃シ袁ノ地位ニ対スル本官ノ私見ヲ求メタルニ
付本官ハ南支那方面ニ関スル正確ナル報ヲ有セサルカ故ニ
何トモ判断致兼ヌルモ張代理將軍サヘ復辟論ニ賛成セラレ
只今貴下ノ明言セラルル通り今後東三省ヨリハ一兵一具モ
中央ヘ貢カサルコトナレハ此事実ノミヨリ推論スルモ袁總
統ハ遠カラス現地位ヲ去ラザルヲ得ザルヘシト想像セラル

由來民心ノ偏向スル所ハ勢ナレハ之中途ニテ逆転セシム
ルコトハ人力ノ及フ所ニアラザルノミナラズ歴史上モ其實
例ヲ承知セスト述ヘ置ケリ御參考迄

八八四 四月三十日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

長春ヨリハルビン著列車ニ於テ彈藥携帯ノ本
邦人手荷物露国憲兵ノ検査ヲ受ケタル件

第五二号

在哈爾賓總領事代理發本官宛左之通り

四月三十日

第五号

四月二十九日夜哈爾賓著列車ニテ玖城太郎、保科正雄及吉
田イナツノ三名長春ヨリ到着ノ処携帯手荷物ノ重量大ナリシ
為露国停車場憲兵ノ怪ム処トナリ手荷物十四個ノ検査ヲ要
求セルヲ以テ右三名ヨリ領事館員ノ出張ヲ懇請シ來リタル
モ仮令館員ヲ派遣スルモ露国官憲ノ検査ヲ拒ムヲ得ス寧ロ
領事館トシテハ關係セサルヲ得策ト思考シタルヲ以テ右派
遣ヲ拒絶シタル処露国側ニテ单独検査ノ結果全部彈藥在中
セルヲ發見シ更ニ当館ニ対シ露国側ヨリ立会ヲ請求シ來リ

タルニ付早速館員ヲ派遣シタルニ先方ニテハ阿片「モルヒネ」ノ密輸送ナラント信シ検査ヲナシタル処彈藥ナリシ為大イニ意外ナリシト云ヒ後日右携帯者ノ身分及目的ヲ通知スルヲ条件トシ無事前記三名竝ニ携帶品全部ノ引渡ヲ受ケタリ然ルニ同人等ノ言ニ依レハ去ル二十七日第一回ノ輸送ヲナシ既ニ北方ニ転送シ且ツ今三十日又々同人等ノ關係者(脱字)元來東清鐵道ニテハ阿片「モルヒネ」ノ輸送ニ対シ嚴重監視シ少シク重キ荷物ニハ直ニ嫌疑ヲ掛クル実状ナルニ拘ラス手荷物トシテ彈藥ヲ輸送セントスルカ如キハ迂遠極マル次第ニテ斯ノ如キ密輸送ニシテ続々發覺スルニ於テハ露国人ヨリ重大ナル嫌疑ヲウケ由々敷キ大事ヲ惹起スヘク痛心ニ堪ヘサル次第ニ付以來東清線ニ依ル兵器彈藥ノ輸送ハ絶對ニ中止セシメタク就テハ御差支ナキ限り貴官ヨリ関東都督ニ対シ前記ノ事情ヲ披歴シ輸送中止ニ関シ至急適當ノ稟議相成ル様致シ度ク万一貴官ヨリ直接稟申セラルコト不穩当ナル場合ニハ外務大臣ヘ其旨電報セラレ同大臣ニ於テ適當ノ措置ヲ講セラルル様御取計アリタシ引取り彈藥ノ処分ニ関シテハ目下考究中

本電報外務大臣ヘ転電ヲ請フ

總領事 松 平 恒 雄(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

庵谷忱ノ同行セル邵榮勲一行ニ関スル件

本邦人庵谷忱ナルモノ醇親王ノ委任状ヲ有スル邵榮勲並蒙古王額爾德朝克図外六名ヲ帶同シ大連ニ向ケ出發ノ件ニ関シテハ客月二十九日拙電第三七号ヲ以テ概略及報告候處庵谷ノ談話ニ依レバ本件ハ関東都督府ノ内命ヲ受ケタルモノニシテ邵榮勲ハ大連市長石本鎮太郎ト旧知ノ間柄ナルヨリ石本ニ関東都督府ヨリ内命シタル処同人ハ旅行中ニテ北京ニ來ルコト能ハサル事情アリシ為石本ニ代リテ本件ヲ処理シタル由ニ有之庵谷ハ客月二十日窃カニ北京ニ至リ邵榮勲ト打合ヲ為シ共ニ大連ニ赴クコトトナシタルモノナルガ邵榮勲ニ於テモ本件ヲ極メテ内密ニ遂行センコトニ苦心シ北京ニ於ケル庵谷トノ打合セハ邵ノ妹カ曾テ日本実践女学校ニ在学シタルコトアルニ依リ庵谷ハ同校ノ教師ナリト偽稱シ妹カ旧師ヲ訪問スル体ニ為シ同女ヲ通ジテ数日間ニ亘リ連絡ヲ取り協議ノ結果二十七日ニ至リ漸ク北京ヲ出發スル運ニ至リ邵榮勲以下六名ト共ニ当地ニ來リ廿八日当地出帆ノ天潮丸ニテ大連ニ赴ク手筈ナリシ処一行ニ加ハルヘキ蒙

八八五 五月一日 石井外務大臣ヨリ
在齊々哈爾二瓶領事宛(電報)

巴布札布ニ關係アル宮里及一味ニ対シ措置方訓令ノ件

第五号

貴電第八号及九号ニ関シ宮里ハ元來性宜シカラサル者ナルノミナラス同人及其一味ノ行動ハ兎角露骨ニ過キ節度統一ヲ欠キ累ヲ我邦ニ及ホスコト少ナカラズト認ムルニ付此機會ヲ以テ同人及其一味中特ニ筋惡キモノニ対シ止ヲ得サレハ退去ヲ命シ其他ノ者ニ対シテハ慎重ノ行動スル様充分警告セラレ電報アリタシ參謀本部同意関東都督ヘモ右照応シ可然措置方電訓済

八八六 五月三日 在天津松平總領事ヨリ
石井外務大臣宛

本邦人庵谷忱同行セル邵榮勲一行ニ関シ報告ノ件

機密第三八号 (五月十一日接受)

大正五年五月三日

在天津

古輔国公額爾德朝克図(敖漢左旗ニテ元外蒙古稅務大臣タリ邵榮勲トハ從來常ニ連絡ヲ取り居リシモノナリト云フ)未着ノ為前記天潮丸ニテ出發スルコト能ハサリシカ廿八日午後ニ至リ右蒙古王モ到着シ便船ヲ待ツノミニ至リシモ天津發大連行汽船ハ本月五日出帆ノ濟通丸ニテ出發スルコトニ決定シタル処大阪商船会社汽船湖北丸カ本月三日未明塘沽出帆大連ニ直航スルノ便アリタルヲ以テ天津塘沽間ハ陸軍運輸部所屬汽船隅之江丸ニ搭乗方庵谷ヨリ直接駐屯軍司令官ニ依頼シタル処其承諾ヲ得タル由ニテ本月二日午後当地發一行八名天津日本租界ヨリ右隅之江丸ニ搭乗塘沽ニ向ヒ翌三日未明湖北丸ニテ大連ニ向ケ塘沽ヲ出發致候尚本官ハ右同行者ノ姓名及其他人ナルカヲ尋ネタル処庵谷ハ本件ノ打合セカ前記ノ如ク不諱困難ナリシヲ以テ充分詳細ノ談話モ交換セズ危險ヲ冒シテ漸ク当地迄連レ來リ姓名其他何等知ル処ナク邵榮勲ニ於テハ同行者ハ大連着ノ上紹介スルト同時ニ其上ニテ更ニ詳細打合スヘキ旨談リ居リタルガ(右ハ固ク秘シ居ルモノカトモ思ハル)庵谷ノ聞ク処ニ依レバ同行者六名ハ何レモ滿洲ニ於テ千人乃至二千人ノ部下ヲ有スル者ナル由申述候前記醇親王ノ委任状写別紙御參考

迄添付致候

右報告申進候 敬具

本信写送付先 日置公使

(別紙)

委任状

今委任世襲一等伯爵邵榮勲為国事辦理全權代表此状

攝政醇親王

載礼之印

伯爵邵榮勲取執

大清宣統八年三月 日

八八七 五月七日

在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣(宛)

巴布札布ニ關係アル宮里等処分件

第五六号

齊々哈爾二瓶領事ヨリ

第一五号

貴電第五号ニ関シ行動最モ露骨ナル宮里好磨ハ巴布札布トノ打合モ無ク既ニ本年一月末浪人組ヨリ除外セラレ既ニ放逐セリ宮里庄丞ハ海拉爾ニ在リ青柳ノ意ヲ奉シ単ニ巴布札

布ノ「ラント」ニ入込メル同志ト哈爾賓長春等ニ在ル同志トノ通信聯絡ノ任ニ当リ居ルノミ多少酒癖アルモ十分訓戒ヲシテ今後ノ行動ヲ看視スルコトトシ其他ノモノニ付テモ慎重行動スル様厳達シ置ケリ委細郵便

八八八 五月八日

吉原書記生ヨリ
在齊々哈爾二瓶領事宛

海拉爾地方ニ於ケル本邦浪人組ノ行動ニ関シ

覆命ノ件

大正五年五月八日

吉原書記生

二瓶領事宛

一、宮里好磨ト巴布札布及本邦浪人組トノ關係

二、宮里庄丞ノ行動

三、銃器彈藥輸送問題

四、巴布札布ト本邦浪人トノ關係

五、巴布札布部下ノ独逸人銃殺事件

六、本邦人ノ東清鐵道守備義勇兵出願問題

海拉爾地方ニ於ケル本邦浪人組ノ行動ニ関スル件

一、宮里好磨ト巴布札布及本邦浪人組トノ關係

右宮里好磨ト昨年来前後二回巴布札布ニ面会シ当初ハ幾分巴ノ信賴ヲ受ケシモ同人ノ性質余リ善良ナラズ且舉動露骨ナリシヲ以テ本邦浪人組ノ陸軍派ハ私ニ巴ノ妻女ノ弟ヲ動カシ本年一月末遂ニ好磨ヲ驅逐シ巴トノ關係ヲ断タシムルニ至レルガ好磨ハ其際旅費ノ名目ヲ以テ巴ヨリ勘カラザル手切金ヲ取りタリト噂セラル爾來彼ハ単独行動ヲ取ルニ至リ本年三月二十三日滿洲里出發庫倫ニ向ヒ同四月二十三日歸來シ直ニ哈爾賓經由奉天ニ下リ同地ニ於ケル青柳勝敏ヨリ金錢ヲ強請中ナル趣ナルカ好磨ニ對シテハ既ニ浪人組中ノ陸軍派ニ於テ同人ヲバ南滿洲ニ監視シ再ヒ海拉爾ニ歸來セシメサル様取計濟ナル旨浪人組陸軍派ニ屬スル若林竜雄ハ語レリ

二、宮里庄丞ノ行動

宮里庄丞ハ本年三月二日海拉爾ニ來リ宮里好磨ト同居シ当初兩人ノ關係親密ナリシカ其後互ニ不和トナリ庄丞ハ依然海拉爾ニ止マリ目下奧地哈拉哈(巴布札布居処)ニアル同志ト長春哈爾賓等ニアル同志トノ間ニ於ケル通信ノ中繼ヲ為シ且ツ海拉爾ニ來ル同志ヲ自宅ニ宿泊セシムル等單純ナル任務ニ當リ借家料ハ青柳ヨリ支弁シ居レリ同人ハ海軍兵

曹出身ニシテ酒癖アリ先般同志齋藤元安來海ノ際ノ如キ飲酒ノ結果在同地露國妓樓ニテ乱暴ヲ働キ露國憲兵ノ為メ兩人ノ携帯セル重要書類、拳銃及金子ヲ没収セラレ次日漸ク重要書類ノミ取戻セリ爾來同人ハ謹慎シツアルカ若シ同人ニシテ今後再ヒ失策アルニ於テハ浪人組幹部ノ取計ヒニテ他方面ニ任務ヲ授ケ海拉爾ヲ立退カシムル筈ナリ同人ニ對シテハ小官ニ於テモ嚴重訓戒シ置キタリ

三、銃器彈藥輸送問題

銃器彈丸ノ輸送ハ青柳ノ主宰スル処ニシテ嘗テ一露國商人ニ依頼シ老万留ヲ以テ其密輸送方ヲ受負ハシメントシタルニ該露商ハ此ヲ東清鐵道会社ニ内話スルノ愚策ニ出テタル結果在東京露國大使館ヨリ外務省ヘ照会スルニ至リタルモノナリト云フ其後浪人組ノ手ニテ東清鐵道寬城子駅ヨリ銃器ヲ密輸送セントシタルモ不幸ニシテ積込ノ際発見セラレ体ヨク謝絶セラレタル趣ニテ目下銃器ノ輸送方法ニ関シ頗ル苦心シツアリ或ハ鄭家屯迄本邦人ノ手ニテ輸送シ同地迄巴布札布ノ兵ヲ派シテ受取ラシムヘシトノ說アルモ此ハ在洮南吳俊陞ノ兵ヲ打破スルニ足ル実力ヲ備ヘサルヘカサルト若シ失策スルニ於テハ大正元年度洮南府擾乱ノ際ニ

於ケルカ如キ輸送武器押収事件ヲ再演スルノ危険アリ又一説ニ東清鐵道役員ニ贈賄シ若クハ高圧手段ヲ用ヒテ依然鐵道輸送ヲ企テント主張スル者アルモ結局ノ処未タ決定シタル成案ナク彈丸ノミハ目下柳行李或ハ皮袍ニ入レテ乘客手荷物トシテ常ニ一兩名長春海拉爾間ヲ往復シテ運搬シツツアリ其已ニ海拉爾ニ附着セルモノ柳行李二個皮袍六個ナリ四、巴布札布ト本邦浪人トノ關係

巴布札布ト本邦浪人トノ關係ハ既ニ十分成立セルモノノ如ク目下巴ノ許ニアル本邦浪人ハ齊藤元宏、北条繁月、柳本賢太郎、元井某ニシテ尚本月七日若林竜雄モ同地ニ向ヒ海拉爾ヲ出發セリ巴ニ對シテハ浪人組ヨリ粟及小麦粉ヲ海拉爾ニテ購入シテ此ヲ供給シタルコトアルモ未タ現金ヲ給与シタルコト無シト云フ巴ノ部下ニハ騎兵約二千四百名アリ銃器ハ長短区々ナルモ一通リハ備ハリ居リ彈丸モ相応ニ所持セルヲ以テ若シ本邦ヨリ輸送シ来ル等ナル銃器カ到底入手ノ見込無キニ於テハ事ノ成敗ヲ問ハス現在ノ儘ニテ事ヲ起スベシト主張スル者モアリ因ニ巴ノ息二人ハ人質トシテ南滿洲旅順地方ニアリ本邦人モ亦人質ヲ巴ノ許ニ入レ居ル趣ナルカ真偽不明ナリ目的地ニ就テハ長驅北京ヲ突クヘシ

テ上田ハ本年四月九日付ヲ以テ同長官宛願書ヲ提出セルモ未ダ回答ニ接セズト云フ

八八九 五月十五日 日本外務省ヨリ
在本邦露國大使館宛

蒙古ニ於ケル騷擾ニ宮里等參加ニ付監視並日
本提供武器彈藥ノ東支鐵道ニ依ル輸送皆無ノ
面回答ノ件

The Japanese Government have submitted to their careful consideration the confidential communication which the Russian Chargé d'Affaires was so good as to make on April 21 on the subject of proceedings of certain Japanese in Hailar in complicity with a Prince of Inner Mongolia. The Japanese Consul at Tsitsihar was instructed forthwith to keep close watch on the movement of Miyazato and his associates and to give them strict warning against their participation in any objectionable activity which may be conducted by the Mongols. He was authorized to order, if necessary, the deportation of the Japanese in question, in case he is satisfied that their continued presence in that district is detrimental to the public order and security.

ト主張スルモノ及南滿地方主トシテ鉄嶺、奉天、遼陽ノ奧地ニ突出スヘシトナスモノ或ハ東清鐵道沿線、黑龍江省地方ヲ擾亂セシムヘシト云フ者杯アリ区々ニシテ一定セズ五、巴布札布部下ノ独逸人銃殺事件

本年一月巴布札布ノ部下ハ西烏珠穆沁王府北約百五十清里ノ地点ニ於テ独逸人十一名及隨行ノ蒙古人一名ヲ銃殺シタリ該一行ハ東清鐵道破壞ヲ目的トシタルモノラシク爆發罐二百余个ヲ携帯シ居リシヲ以テ銃殺後該爆發罐及其他ノ証物物件ヲ在海拉爾露國領事ニ引渡シタルニ露國側ニ於テハ謝礼トシテ「モーゼル」銃二十挺ヲ贈与セル処巴布札布部下中ニハ贈与ノ銃器僅少ナリトテ憤懣スル者アリト云フ六、本邦人ノ東清鐵道守備義勇兵出願問題

本邦義勇兵ヲ以テ東清鐵道ノ守備ニ当ラシメントスルハ在東京大原武慶ノ計畫スル処ニシテ大原ハ之カ実行方ヲ富拉爾基(東清鐵道ノ一駅ニシテ齊々哈爾厥ノ西十二露里ノ地点)居住本邦人上田伝八ニ依頼シタルガ上田ハ自己ノ名義ヲ以テ本邦義勇兵東清鐵道守備願ヲ作成シ先ツ哈爾賓護境軍団參謀長「バラノフ」ニ相談シタルニ同參謀長ハ該願書ハ「イルクック」軍務長官宛提出スヘキ旨ヲ諭シタルヲ以

As regards rifles and cartridge said to have been forwarded to Changchun for transmission by the Eastern Chinese Railway, the Japanese Consul at Changchun telegraphs that the only information to hand is that a Japanese arrived there about a fortnight ago with a view to purchase rifles and ammunition which, he professed, were required for the protection of a mine in the interior but that, having failed to obtain the desired supply, he returned to Harbin. It has further been ascertained here from the competent authorities that no rifles or ammunition have recently been sent from Japan to Changchun or other neighbouring localities.

Foreign Office, Tokio.

May 15th, 1916

八九〇 五月二十九日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ヨリ農業鉅山等ニ関スル日本側ノ希望
申出方等ニ付内話ノ件

第二一八号

往電第二一五号末尾ニ関シ五月二十九日中村都督一行ト共ニ張作霖ノ午餐会ニ招カレタル処食後作霖ヨリ都督竝本官

ニ対シ内密話シタキ儀アリトテ田村參謀菊地中佐ノミノ同席ヲ求メ奥マリタル自分ノ居室ニ導キ支那側ハ于沖漢ノミヲ列席セシメ(馬交涉署長モ午餐ニ列席シタルモ同席セシメス且本署ノ通訳ヲモ退ケタリ)于ノ通訳ニテ今ハ誠心誠意ヲ以テ打明ケ御話スル次第ナリト前提シ從前屢々本邦側ヘ申出タル通り先ツ自分ト日本トノ浅カラサル關係竝ニ滿洲ト日本トノ特殊ノ關係ヲ述ヘ自分ハ滿洲出身ニシテ財産モ總テ此処ニアレハ今後モ此地ヲ去ルコト能ハサルベク從テ飽迄モ日本ノ援助ヲ頼マサルヘカラズト云ヒ又自分ハ袁世凱ニ睨マレ居レバ北京トノ關係ハ表面上ハ兎モ角實際上獨立同様ナリト説キ從テ今後自由ニ奉天省ノ事ヲ処置シ得ル地位ニ在レハ今後ハ在来ノ將軍ガ口先キバカリ日本ニ好意ヲ表シタルト異リ農業ナリ鉱山ナリ何カ希望アレバ申出テラレタク實際ニ好意ヲ表スヘシ云々ト繰返シ約一時間ニ渉リ陳弁シタル末結局附屬地内ノ秩序維持ニ付懇願セリ都督ハ成ルヘク不得要領ニ応接セラレタルカ其節作霖ハ本官ニ対シ今回ノ爆彈事件ニ付取調ヘタル処右ハ附屬地内居住ノ河崎武ノ計画セルモノニシテ投彈者ノ一人ハ宮崎九齡ト呼ヘル日本人ニシテ爆發ノ為死亡セリト述ヘ自分ノ密偵ハ

河崎武ノ許ヨリ既ニ爆彈十五個ヲ貰受ケ現ニ昨夜モ河崎等ノ密合セル所ヨリ許ツテ爆彈ヲ貰受ケ来レリ是等ハ総テ手許ニ保管シアリ云々ト云ヒテ取締方ヲ要求セルニ付右ハ何等カノ間違トハ信スルモ兎モ角取調ノ上回答スヘシト答ヘ置ケリ右作霖ノ述ヘタル事實ニ付テハ真相内密取調中ナレバ其上ニテ回答振其他ニ付追テ請訓ニ及フベシ不取敢申上ク
在支公使ヘ電報セリ

八九一 五月三十日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ニ対スル爆彈事件ニ関シ内密聴取ノ真相報告ノ件

第二二〇号(極秘)

往電第二二一八号末段ニ関シ警察機關ニ依ラス直接河崎等ニ就テ同人ト密接ノ關係アル向ヨリ内密真相ヲ聴取ラシメタル結果ヲ綜合スレバ支那側ノ主張スル如ク同人ノ部下決死ノ日本人一名犠牲トナリ爆發ト共ニ自殺シタルハ事實ナルモ食物服裝等ニ付細心ノ注意ヲ払ヒタルノミナラズ身体粉碎シタレバ何等手掛ヲ残スカ如キコト断シテ之レ無ク又未

曾テ爆彈ヲ支那人ノ手ニ渡シタルコト無ケレバ拾五個云々ハ全然虚偽ナルカ若ハ大連辺ニテ売買セラレ居ル爆彈ナルベキ將又更ニ機会ヲ俟テテ張作霖殺害ノ目的ヲ遂行スル管ナリトノコトナリ尚右ハ絶対秘密ト云フ固キ契約ノ下ニ同人等ヲシテ突ヲ吐カシメタルモノナレバ其含ニテ御取扱ヲ請フ

八九二 五月三十日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ニ対スル日本ノ真意ヲ知リタキ旨于冲

漢菊池中佐ニ談話ノ件

第二二一号

往電第二二一八号ニ関シ張作霖カ今回ノ爆彈事件ヲ全ク中央政府ノ黙認ノ下ニ浪人ヲシテ決行セシメタルモノト信シ居ル模様アルハ同電作霖ノ口吻ニヨリテ推測セラルル所ナルカ今三十日朝中村都督ノ見送りニ来レル于冲漢ハ菊池中佐ニ対シ作霖ハ爆彈以来日本ハ自分ニ対シ如何ナルコトヲナセト要求スル次第ナルヤ望ム所アレハ鉱山ナリ土地ナリ何レナリト申出アレハ如何様ニモ自分限りニテ取計フヘク若シ自分ノ当地ニ將軍タルコトヲ望マザル次第ナレバ潔ク当

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八九二 八九三

地ヲ去リ蒙古ニデモ引上クヘシ(蒙古ノ達賴^{ダライ}王親族ナレバ斯克云フナラン)何レニセヨ日本ノ真意ヲ知リタシトノコトナリト語りタルニ付菊池ハ將軍カ果シテ誠意ヲ以テ右様ノコトヲ云ハルルナラバ事重大ニシテ自分限り何トモ申難キモ將軍カ獨立シ交戦団体トシテ日本ヨリ承認ニテモ得タル咄ハイザ知ラス今日ノ如ク北京政府ノ下ニ行政ノ局ニ当リ居ラルル以上ハ將軍限り之レヲ言ハルルトモ之レハ出来難カルヘク其辺ノ事ヲ熟考シテ領事ニ申出ラルル方宜シカルヘシト答ヘタル由御參考迄
北京ニ電報セリ

八九三 五月三十日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

爆彈事件ノ善後措置ニ関シ全然無關係ノ態度ニテ放任シ差支ナキヤ請訓ノ件

第二二二号

今回ノ爆彈事件ノ真相ハ往電第二二〇号ニテ御推察ノ通ナルガ一方支那側ニテモ相当有力ナル証拠ヲ握リ居ルモノト想像セラレ反駁ヲ加フルニ付テモ細心ノ注意ヲ払フコト必要ト存セラルル処往電第二二一八号末尾作霖ノ取締要求ニ付

如何回答ヲナスヘキヤ大体ノ御趣意ニテモ承知致度シ又被害本邦人ニ對シテハ不取敢被害程度ノ取調ヲ命シ置キタル処本件モ前掲加害者ノ本邦人ナルヤ否ヤノ問題ト關聯シ居リ作霖ヲシテ賠償セシムルコト極メテ困難ト存ズルモ是又飽迄支那側警察ノ不取締ノ廉ヲ以テ先年ノ革命事変ノ例ニ倣ヒ要求ヲ提出スヘキヤ將又河崎等ニ對シテハ關係者ヨリ再ビ無謀ノ暴挙ヲナササル様敵シク注意スルト共ニ都督府ヨリモ參謀本部ニ宛責任者ヲ通ジ戒飭方取計アリタキ旨電報シタル筈ナルガ右以上本官ニ於テハ何等措置スルコトナク全然無關係ノ態度ニテ放任シ置キ差支ナキヤ併セテ何分ノ義至急御電訓ヲ仰ク

八九四 五月三十一日

石井外務大臣ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛(電報)

爆彈事件ニ関シ日本側無關係ナル旨張作霖ニ
説述方並河崎武戒告方訓令ノ件

第七一号

貴電第二二二二号ニ関シ

(一) 貴電第二一八号末尾張作霖ノ取締要求ニツキテハ貴官ハ親シク將軍ニ面会ノ上帝國政府ノ訓令トシテ左ノ主意ヲ

ルコト同將軍ノ為ニ利益ナルヘシ

(二) 爆彈事件ニツキテハ前記ノ如ク日本側ニ於テ全然無關係ナルコトヲ主張スルモノナルニ付被害本邦人ニ関シテハ飽迄支那警察不取締ノ廉ヲ以テ從前ノ例ニヨリ要求ヲ提出スルコトト致度シ

(三) 河崎武ニ對シテハ今後或ハ我方ニ於テ張作霖ヲ利用スルコトアルヤモ知レサルノミナラス過般ノ如キ暴挙カ我勢力範圍内ノ地域ニ於テ行ハルルコトハ不都合ナリ旁々過般ノ爆彈事件ノ如キコトハ決シテ帝國ノ利益ニアサル可キ旨ヲ告ケ此際輕拳大局ヲ過ルカ如キコト無キ様篤ト戒告シ置カルル様致シタシ

以上參考ノ為都督ヘ電報アリ度シ

八九五 六月二日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

滿洲ノ秩序維持及借款等ニ付張作霖トノ談話

報告ノ件

第二二七号 極秘

貴電第七一号ニ関シ大臣ヨリ電訓ニ接シタルニ付至急面会致度旨菊池ヲ通シ(交渉署長ヲ經由スルコトヲ作霖ニ於テ

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八九五

説述シ置カルル様致度シ

今回ノ爆彈事件ニツキテハ当方ニ於テ各方面ニ亘リ詳細ナル調査ヲ遂ケタル結果日本人側ニ於テハ直接間接共ニ何等ノ關係ナキコトヲ明ラカニシタリ但シ附屬地其他帝國ノ權力ノ及フ範圍内ニ於テハ從來トテモ浮浪人ノ取締ハ勿論一般治安ノ維持ニツキ最モ意ヲ致シ居リタル処ナルカ將來ニ於テモ引續キ嚴重ナル取締ヲ勵行ス可キニツキ我權力ノ及ブ範圍内ノ取締ニ関シテハ帝國政府ヲ信賴シ其ノ意ヲ安ムセラレテ可ナリ然シナカラ現下滿洲ニ於ケル不安ノ狀態ハ畢竟スルニ支那警察ノ不完全ニ原因スルコト多キヲ以テ如何ニ日本側ニ於テ附屬地其他ノ取締ヲ嚴重ニスルモ支那側ノ警察狀態ニシテ現在ノ如クナルニ於テハ滿洲ノ治安ハ到底維持セラル可ラサルハ明白ナリ從テ若シ將軍ニシテ希望セラルルニ於テハ此際滿洲ノ治安維持並ニ將軍ノ身体ノ安全ノ為ニ我ニ於テ將軍側ト協力スルコトモ敢テ辭スル所ニ非ス現ニ滿洲ニ於ケル市場救済ノ為メ朝鮮銀行及三井ニ對シ將軍ヨリ申込中ノ借款ニ對シテモ此主意ニヨリ帝國政府ニ於テハ折角配慮中ナル次第ナリ如此事情ナルニ付テハ將軍ニ於テモ此際進ムテ万事腹藏無ク帝國領事ニ相談セラル

希望セス)作霖ニ申入タル処于冲漢ヲ招キ待受クヘシト回答アリシヲ以テ六月一日夕刻单独ニテ往訪シ居室ニ於テ御訓令ノ趣旨ヲ口頭ヲ以テ申入タル処作霖ハ喜色ヲ呈シ今後

ハ遠慮ナク万事打明ケテ本官ニ相談スヘキニ付今後于不在ノ節ハ領事館ノ通訳ヲ伴ヒ直接來訪アリタシト述ヘ鉦山土地等ニ付テモ北京政府ノ許可ヲ待タス自分限りニ於テ有効ニ許可スヘキ弁法アルヘシト云ヒ極端ナル言ヒ分ナレドモ日本政府ニ於テ余リ自分ヲ苦シムルニ於テハ滿洲全部ヲ日本ニ提供シテ蒙古ニ遁ルル方寧ロ優レリト迄菊池ニ公言シタル程ナリ然レドモ自分当地ヲ引揚ゲ何人カ後任者トナルモ尚日本側ニ於テ秩序維持ニ努力セサレバ当地方ニハ日露戰爭ノ際民間ニ遺棄セラレタル小銃数万挺モアルコトト一度当地ノ秩序乱ルルニ至ラバ各地人民ハ之等武器ヲ以テ所在蜂起シ局面ハ收拾スルコト能ハサルニ至ルヘク斯クテハ善良ナル支那人民ハ勿論日本人ニ取リテモ恢復スヘカサル損害ヲ与フルモノニシテ兩國ノ不幸之ヨリ大ナルハナカルヘシト述ヘタルニ付本官ヨリ秩序維持ニ付テハ尽力シ居ル旨ヲ述ヘ現ニ趙秀山(客月三十一日附機密第一〇三号拙信參照)ニ付テハ成程附屬地内ニ潜伏シ居ルコトヲ突止

メタルヲ以テ何等本邦側ニ対シ不穩ノ舉動ナキニ拘ラス貴方ノ申出ヲ容レ論旨退去セシムルコトセル程ナレバ(予メ河崎ニ因果ヲ含メ置ケリ)本官ノ誠意ヲ貴方ニ認メラレタシト語リ口ヲ極メテ支那密偵ノ報告ノ信スヘカラサル実例ヲ指摘シタルニ作霖モ全然同感ナリト答ヘタリ次テ本官ハ借款問題ニ言及シ往電第二一二号後段ノ趣旨ヲ説示シ年々繰返ス金融界ノ恐慌ヲ除去スル為本邦銀行側ヨリ支那銀行ニ対シ援助ヲ与フルト共ニ紙幣発行ヲ監督スル為本邦側ヨリ専門家ヲ入ルルコト必要ナルヘキ旨ヲ説明シタルニ作霖ハ將軍府ニ於テ東三省官銀号ノミヨリモ五百万元ノ債務アレバ紙幣発行ニ就テ余リ嚴重ナル監督モ出来難キ内情アレドモ本官ノ申出モアルニ付有効ナル方法ニ付研究シ置クヘク当省ノ行政費ハ此処二三ヶ月ハ大丈夫ニシテ焦眉ノ急ハ銀行ノ救済ナリト答ヘ又米國總領事ヨリ二三日前借款ノ申出アリタルモ断然之ヲ斥ケタリト述ヘ次テ本官ヨリ今回ノ爆彈ハ將軍殺害ノ目的ナルニ側杖ヲ喰ヒタル被害本邦人ニ対シ將軍ヨリ慰藉料ヲ支出セシムルハ如何ニモ氣ノ毒ノ感アレド警察不取締ノ責任ハ免レ難キ次第ナルヲ以テ本官査定ノ金額ヲ支出アリ度ト懇ニ申聞ケタルニ快ク之ヲ承諾

シタリ尚本官退出ノ際作霖ハ列席シタル菊池中佐ヲ引留メ『アノ分ナレバ宜シ』(那好、那好)ト連呼シ非常ニ喜ビ居リタル模様ナリト右ハ本官ヨリ菊池ト打合せ予メ作霖ニ警告セシメ置タルト前日内田良平于沖漢ヲ訪問シ大分露骨ナル意見ヲ述ヘタルニ依リ心配シ居リタル際トテ安心シタルモノナルヘシト察セラル

八九六 六月三日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

滿洲ノ警察權ニ付張作霖談話ノ件

第二二八号 極秘

往電第二二七号会见ノ際張作霖ヨリ御訓令ノ趣旨ヲ篤ト研究致シ度ニ付写ニテモ貰受ケタシトノコトナリシヲ幸ヒ作霖其後ノ模様内探旁六月二日菊池中佐ヲシテ貴電第七一号(御訓令ノ趣旨ヲ拔書シタル紙片ヲ持參セシメタル処作霖ハ于沖漢ヲシテ解釈説明セシメタル後菊池ニ対シ日本ハ滿洲ノ警察權ヲ貰ヒタシト云フニヤ一度之ヲ讓レハ結局朝鮮ト同一ノ運命トナラン朝鮮トナルコトハ如何ニモ好マシカラスト云ヒタルニ付菊池ハ滿洲ノ秩序維持完全ニ行ハレサルハ全ク支那警察ノ不備ニ基ク次第ナルヲ以テ之ヲ有効ナ

ラシムル為日本ニ於テ助力スヘシトノ意味ナルヘク但シ自分ノ考ニテハ從來ノ顧問制度ニテハ到底実効ヲ挙げ難カルヘシト信スト述ヘタル由ナルカ作霖ハ近來(一)北京ノ大借款モ成立疑ハシクナリタルコト(二)湖南陝西等ノ獨立シタルコト(三)馮國璋等ノ頼ミ難クナリタルコト(四)爆彈ノ為心胆ヲ寒カラシメタルコト等ノ原因ニテ我方ニ倚ラントスル傾向アルモ如何ナル要求ヲ受クルヤニ付危險ノ念ヲ抱キ頻ニ之ヲ探ラントスルモノノ如ク察セラル御參考迄

八九七 六月三日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日本ノ滿洲秩序維持ノ尽力ニ対スル代償ニ関シ張作霖ヨリ問質ニ付請訓ノ件

別電 同日矢田總領事代理石井外務大臣宛電報第二三〇号張作霖申出ニ対スル回答振ノ件

第二二九号 極秘

往電第二二八号ニ関シ張作霖ハ六月三日菊池中佐ヲ招キ自分ハ段芝貴放逐以來袁世凱一派ヨリ敵視サレ居リ彼等カ勢力ヲ回復スルトキハ必ス報復ヲ受クベケレハ飽迄モ日本ノ援助ノ下ニ地位ヲ維持スル外ナキ此際獨立セントスルモ

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 八九七

馮德麟吳俊陞ノ輩ハ全ク自分ノ願使ニ甘ンスル次第ニアラサレハ或ハ彼等ト闘ハサルヲ得サルコトナルベク今直ニ獨立ノ宣言モ出来サル次第ナリ然ルニ一方昌圖復州方面ニハ乱党竊ニ集合シテコトヲ挙ケントスル模様アリ滿洲ヲ騷擾ノ巷トシテ人民ヲ塗炭ニ苦シムルハ自分ノ忍バザル処ナレバ日本ノ希望スル処ノモノハ鉄道ナリ鉱山ナリ土地ナリ何ニテモ之ニ応スヘキニ付日本官憲ニ於テ秩序ノ維持ニ尽力サレンコトヲ望ム就テハ領事ヲ訪問シ日本ハ何ヲ望ム次第ナリヤ日本政府ノ明白ナル意圖ニ関スル領事ノ意見ヲ聴キ来レト命シタル由ニテ菊池ヨリ本官ノ回答ヲ求メタルニ付本官ハ菊池ヲ通シ本官一己ノ私見ナル旨ヲ斷ハリテ別電第二三〇号ノ通口頭ヲ以テ回答セシムル筈御異議アラバ至急御回答ヲ請フ

(別電)

六月三日在奉天矢田總領事代理石井外務大臣宛電報
張作霖申出ニ対スル回答振ノ件

第二三〇号 別電 極秘

先般來將軍ヨリ直接間接同様ノ趣旨ノ申出ヲ受ケタルガ本官ハ固ヨリ將軍ノ精神ノアル処ヲ察シ之ヲ諒トシ居ルモ奈

何セン將軍ハ裏面ハ兎モ角モ表面ハ何処迄モ北京政府ノ任命セル一地方官ニ過ギザレバ假ニ將軍限リニ何等約束若クハ許可サルトルスルモ中央政府ニ於テ之ヲ默認スル筈ナク必スヤ直ニ將軍ノ地位ヲ奪ヒ將軍ノ名ヲ以テナシタル專斷越權ノ措置ハ凡テ之ヲ取消スコトナルベク我方ノ迷惑ハ勿論將軍自身ノ不面目之ヨリ大ナルハナカルヘシ事茲ニ至レハ將軍モ結局中央政府ニ背キ武力ヲ以テモ將軍ノ面目ヲ維持セサルヲ得サル破目ニ陥ルヘキカト憂慮セラル要スルニ近頃失礼ナル申分ナレトモ將軍ノ申出ハ如何ニモ小兒騙ノ感アル様存セラレ実ハ先日來未ダ大臣ヘモ上申スルコトヲ躊躇シ居ル次第ナリ將軍ニシテ果シテ真ノ滿洲五百万ノ人民ノ幸福ヲ顧慮セラルルナラバ更ニ一步ヲ進メテ根本問題ノ解決ニ付決意セラルルコト緊要ナルヘシト愚考ス

八九八 六月四日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ノ時局ニ関スル談話ニ付請訓ノ件

第二三三三號

貴電第七二號張作霖カ本官ノ回答ニヨリ北京政府トノ關係ヲ斷ツコトニ決心ヲ固ムル迄窮迫シ居ルモノトハ想像セラ

レサルモ目下ノ処ニテハ愈々獨立スル場合ニハ往電第二三二號張勳ニ対スル回答意見ノ通り矢張復辟論ナルヘシト察セラル尚六月五日ハ端午節ナレハ本官ト食事ヲ共ニシ種々懇談致度ニ付非公式ニ來訪アリ度キ旨只今作霖ヨリ申出アリ承諾シ置キタルカ其節種々申出モアルヘキニ付明日午後三時頃迄ニ何分ノ御回示ヲ仰キ度シ

八九九 六月五日 石井外務大臣ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛(電報)

張作霖ノ申出ニ対シ日本ハ代價要求ノ意思ナ

キ旨竝滿洲ノ治安維持ニハ日本ニ信頼スルコ

ト必要ナル旨回答方訓令ノ件

第七三號 極秘

貴電第二二九號ニ関シ貴電第二三二號ニ抛レハ袁世凱ノ密使モ來奉中トノ事ナレバ張ト袁トノ關係ハ未ダ全ク斷絶シ居ルモノトモ思ハレサルニヨリ此際我方ニ於テ余リ深入スルニ於テハ袁派ニ内告セラルル等之レヲ逆用セラル、ノ虞有リ危険ト思考セラルルニ付貴電第二三〇號ノ主意ヲ此際張ニ通スルコトハ之ヲ見合ハスコトシ其代リ貴官ハ張ニ面会ノ際日本ハ滿洲ニ於テ何等利權ヲ獲得セムトスルガ如

キ意志ヲ有スルモノニアラズ日本ノ欲スルトコロハ滿洲ノ秩序維持ニシテ將軍ノ云ハルル通り滿洲ヲ騷擾ノ巷トシテ人民ヲ塗炭ニ苦シマシムルコトハ如何ニモ忍ビサル所ナレバ其秩序ノ維持ニ付テハ間接直接如何ナル努力ヲモ惜マサル可シトノ主意ニ外ナラス曩ニ滿洲ノ治安維持並ニ將軍ノ身体安全ノ為我方ニ於テ協力スルコトモ辞スルトコロニアラスト申入レタルモ亦此趣意ニ出テタルモノナリ而シテ滿洲ノ治安ヲ維持シ滿洲ノ利益ヲ増進スルニツキテハ將軍ニ於テ日本ニ倚ルコト最モ必要且ツ安全ナル方法ナルコトヲ述ヘ張ヲシテ万事我方ニ打明ケシムル様仕向ケラレタシ

九〇〇 六月六日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

袁世凱張勳馮德麟等トノ關係ニ付張作霖談話

ノ件

第二三四號

往電第二三三號ニ関シ予報ノ通五日夕刻坂東通訳生ヲ同伴張作霖ヲ訪問シタルニ作霖ハ一人ニテ待受ケ何時モノ居間ニ案内シ(菊池町野陪席)タルニ付本官ヨリ貴電第七三三號御訓令ノ趣旨ヲ陳ヘ今後出來得ル丈我方ニ打明ケラレタキ

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 九〇〇

旨ヲ申入レタルニ自分ハ元ヨリ日本側ニ対シ何等隠ス処ナキ積リナリト種々内幕話ヲナシタルカ其ノ内耳新シキ点ヲ摘記スレハ左ノ如シ
袁世凱ノ告令ニ対シ一昨日退位勸告ノ電報ヲ發シタルカ之レニ対シ何等返電ナク自分ノ親族ナル鮑貴卿(往電第九六號參照アリタシ)今朝北京出發當地ヘ來ルトノコトナレハ如何ナル用向ナルヤハ面会ノ上ナラサレハ明白ナラサルモ從來袁世凱カ自分ノ態度ヲ疑ヒ種々ノ手段ヲ尽シテ探ラント力メ居レハ右電報ニ対シ急ニ袁世凱ヨリ自分ノ真意ヲ探クルタメ遣ハセルモノナルヘシ(往電第二三二號密使ハ同人ノコトヲ指スモノカ)又袁政府トノ間ニハ時局ニ関スル通信ハ全ク之ナク先頃自分ヲ勳三位ニ叙スル旨ノ電報アリタル以來一電ニモ接セザル有様ナリ袁ハ近頃張家口、熱河、綏遠方面ノ兵ヲ北京ニ集中シツツアレハ愈々最後迄奮闘スル決心ナルヘシ張勳ヨリモ劉某特使トシテ來レルカ從來張勳カ見向キモセサリシ阮忠樞ナトト面会スルヲ見レハ張勳ト袁世凱トハ近頃少シ接近セスヤト疑ハルル節アリ自分ハ本來革命黨嫌ナレハ復辟論ニテ行ク積リナリ
馮德麟ト自分トノ關係ハ馮ノ部下汲旅長ノ細工ニシテ大分

疎外セラレタル点モアリ且衰ハ自分ト馮トノ間ヲ割カント企テ居リ段芝貴ノ如キモ当地ニ在ル間ハ或ハ自分ヲ熱河ニ追ハントシ或ハ馮ヲ南征セシメントスル等自分等兩人ノ一致結合ヲ阻害スルニ努メタリ現ニ段祺瑞ハ最近密ニ吳光新ヲ馮ノ許ニ遣ハシタル形跡アリ若シ馮ニシテ將軍タラント欲セハ何時ニテモ之ヲ讓ルヘキモ彼ハ煙毒既ニ膏肓ニ入り居レバトテモ其任ニ堪ヘザルヘシ併シ当方ヨリ近頃一ヶ月三千円宛ヲ馮ニ送ルコトニナリ居レバ先ツ円滿トナレリ又馬交渉使ハ衰ノ信任セル人物ナレハ今後内密ノ用向ニ付テハ直接自分ト打合サレタシトテ電話番号ヲ告ケタリ尚其節作霖ハ自分ハ日支新条約ヲ読ミタルコトナキカ例ヘハ滿洲ニテ鉱山ヲ採掘ヲ日本人ニ許可スルトセハ如何ナル手續ニ抛ル次第ナリヤ等ノ質問ヲナシ土地買入等ニ付自分ノ名義ニテ買入レ日本側ニ讓ルコト、スレバ面倒ナル手續キヲ要セサルヘシ忤ト語レリ

公使ヘ電報セリ

九〇一 六月六日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

土井派当初ノ計画ニ対スル措置振ニ関シ請訓

ル可ク右ノ如キコトアルベカラザル筈トノコトナリ袁死亡ノ為サナキダニ人心ノ動揺ヲ見ントスル折柄滿洲ニ於ケル舉事ハ大局上日本ニ取リテ甚望マシカラサル次第ニ付貴官ハ從前通りノ方針ニテ嚴重御取締相成度ク參謀本部ヨリモ夫々關係ノ向ニ右ト同一趣旨ニテ電報濟ノ筈ナリ

九〇三 六月十三日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

復州地方ニ於ケル革命党ノ動向ニ付関東都督

へ注意方稟請ノ件

第二五五号

六月十三日張作霖菊池中佐ノ來訪ヲ求メ信スヘキ筋ノ情報ニ依レハ革命党ノ一派復州地方ニ於テ近ク事ヲ舉ケンストスル趣ナル所最近黎總統ヨリ日支兩國ノ間大ニ接近連絡シ居ルヲ以テ滿洲方面ニ於テモ和衷協同事ニ当ルヘシトノ旨電報ニ接シ居リ且領事トモ最近極メテ能ク意志疏通シ居ル際斯カル情報ヲ得ルハ甚タ遺憾トスル所ナリト述ヘ至急取締方本官ニ依頼アリタシト述ヘ兎ニ角明十四日本件ニ付重ネテ懇談致度キニ付本官ヲ帶同來訪サレタシトノ旨ヲ申出タル由ニテ菊池ヨリ事実無根ナルヘキ旨ヲ説示シタルニ作霖

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 九〇三 九〇四

ノ件

第二三五号 極秘

其筋ノ真意確メノ為曩ニ土井一派ヨリ貴地ニ派遣シタル小磯參謀歸來シ其筋ニテハ表面同派ノ舉事ヲ引留メ居レルモ内実ハ之ヲ默許セントスル意嚮ナリト以心伝心ニテ了解シタル旨報告アリタル結果愈々本月中旬ヲ期シ莊河、復州、遼西、本溪湖竝当地ニ於テ当初ノ計画ヲ決行セントスル趣ナルカ斯克テハ本官ヨリ差止ムルモ其効ナカルヘキニ付テハ他ノ方面ハ免モ角当地竝本溪湖ハ本邦人ノ利害關係甚大ニシテ居留民ノ保護上相當警戒ヲ致置キ臨機ノ措置ヲ執ルノ必要モ有之ニ付右ニ対スル措置振ニ関シ予メ御回訓相願ヒタシ

九〇二 六月七日 在奉天矢田總領事代理宛(電報)

滿洲ニ於ケル舉事計画ニ関シ從前通り嚴重取

締方回訓ノ件

第七六号 極秘

貴電第二三五号ニ関シ參謀本部側ニモ尋ネタルニ小磯參謀歸來後ノ以心伝心云々ノ談話ハ何等カノ誤解ニ基クモノナ

九〇四 六月十四日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
中村関東都督宛(電報)

復州地方ノ革命党ノ舉事計画ニ付嚴重取締方

訓令ノ件

第六七号

在奉天總領事代理來電ニ依レハ張作霖ハ六月十三日菊池中佐ニ対シ革命党ノ一派近ク復州地方ニ事ヲ舉ケンストスル旨ノ信スヘキ情報ニ接シタル趣ヲ以テ至急取締方同總領事代理ヘ依頼センコトヲ求メ兎ニ角十四日同官ト共ニ重ネテ面会シタキ旨申出タルニ對シ菊池中佐ヨリ事実無根ナルヘキ旨ヲ説示シタルニ張ハ彼等モ既ニ資金ニ窮スルトキナレハ

金錢強奪ノ目的ニテ何カ騷擾ヲ起スヘシトテ之ヲ確信シ居ル模様ナリシトノコトニテ矢田ハ十四日会見ノ際事實無根ナル旨並嚴重取締方關係当局者ヘ電報シタルニ付安心アリタキ旨回答スル筈ナリトノコトナリ就テハ万一右様ノ計画アリテハ此際我方ニ取り不得策ナルニ付取締方充分注意アリ度シ

九〇五 六月十五日

白仁閣東都督府民政長官ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

租借地及鉄道附屬地内ニ於テハ輕拳妄動ナキ
様取締リ居ル旨報告ノ件

秘第六〇号

都督宛貴電第六七号敬承租借地及鉄道附屬地内ニ於テハ予テ御訓示モアリ輕拳妄動ナキ様取締リ居ルニ依リ奉天領事ノ言明ノ通り事ヲ挙クルカ如キコトナシト信スルモ我警察以外ニ於テハ事實ノ有無明白ナラス其辺御含置ヲ請フ近來租借地内ニ於ケル大連及貔子窩ニ入込ミ居ル宗社党ハ多数ノ人数ヲ諸方ヨリ募集シ来リ頻リニ好機ヲ俟ツモノ、如キモ此方ハ陸軍部ニテ取締リ居ルニ付中央ノ指図ナキニ漫ニ事ヲ挙クルコトナシト信ス

バルガニ於テ騷擾スル日本人追放方要請ノ件

By its memorandum of May 15th the Gaimusho informed the Russian Embassy that the Japanese Consul at Tstishar was instructed to give the Japanese subjects, connected with the agitation among the Mongols at Barga, a strict warning against their participation in any objectionable activity which might be conducted by the Mongols. The deportation of the Japanese in question. The Russian Embassy did not fail to communicate the above assurances to the Imperial Ministry of Foreign Affairs.

The Russian Ambassador has now received new informations from Petrograd stating that the above-mentioned activity of the Japanese subjects at Barga still continues and that several Japanese recently arrived at Hailar started an agitation among the inhabitants of Barga trying to persuade them to join the movement for the restoration of the Manchu dynasty and pretending that in this matter Japan acts in agreement with Russia and Great Britain.

Acting under the instructions of his Government the Russian Ambassador has the honour to ask the Japanese Government to order, in accordance with

州外復州方面ニ於テ例ノ顧人宜一派ノ連中多少兵ヲ募集シ居ル模様ナルニ付此方面ニハ事ヲ挙クルヤモ計ラレスト雖勿論我警察以外ノコトニテ取締ノ途ナシ之モ御含置請フ

九〇六 六月十六日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

顧人宜、金專山ノ遺子等宗社党ヲ標榜シ復州ヲ攻撃セルニ付出兵討伐シタキ旨張作霖申出ノ件

第二六一号

往電第二五五号ニ関シ六月十六日張作霖ニ面会シタルニ作霖ハ顧人宜、金專山ノ遺子等カ討袁革命軍ノ旗幟ヲ一変シテ宗社党ヲ標榜シ二千人余ヲ率ヒ水陸両面ヨリ復州ヲ攻撃セル旨ノ同県知事ノ報告電報等ヲ本官ニ示シ至急出兵討伐致シ度シトノ旨ヲ申出タルニ付右ハ恐ラク誇大ノ報道ナルヘキモ復州ハ中立地帯ナレハ出兵ニ付都督ノ承認ヲ要スヘキニ付其手続ヲ執ラルヘキ旨ヲ説示シ置ケリ在支公使ヘ電報セリ

九〇七

六月二十七日 在本邦露国大使ヨリ
日本外務省宛

their agreement(?) the deportation of the above mentioned Japanese agitators.

Tokyo, the 27th of June, 1916.

(欄外註記)

「六月二十七日露国大使来省外務次官ニ手交」

九〇八 六月三十日

石井外務大臣ヨリ
在中國日置公使
在露国本野大使各宛

呼倫貝爾地方日本浪人取締ニ関スル件

送第一〇二号

曩ニ四月二十一日在本邦露国代理大使幣原次官ヲ来訪ノ上別紙甲号写ノ通覚書ヲ差出シ呼倫貝爾地方ニ於ケル日本人ノ行動ニ関シ帝國政府ノ注意ヲ喚起スル旨申出候ニ付在齊々哈爾領事及在長春領事ノ報告ヲ徴シタル上在齊々哈爾領事ニ対シ宮里及其一味中特ニ筋悪キ者ニ対シ已ムヲ得サレバ退去ヲ命ズヘキ旨電訓シ露国代理大使ヘハ別紙乙号写ノ通り及回答処六月二十七日在本邦同国大使更ニ幣原次官ヲ来訪シ別紙丙号写ノ通覚書ヲ差出シ本件不穩浪人追放方希望スル旨申出委細ノ情報ハ在齊々哈爾露国領事ヨリ在同地帝國領事ヘ申通スルコトト致スヘキ旨申添シニ付二瓶領事

ニ對シ不取敢該地方ニ於ケル我浪人達ノ現状詳細電報ス可ク又露國領事ヨリノ談話ヲモ聞取り是亦詳細電報スヘキ旨電報致置候御參考迄此段申進候也

註 別紙甲乙丙各号前掲ニ付省略

九〇九 七月八日 白仁閣東都督府民政長官ヨリ
石井外務大臣宛

關東州内ノ宗社党革命党ノ動向ニ付報告ノ件

敬呈

先般當關東州内宗社党革命党ノ義ニ付現状御參考迄申進置候御一覽被下シ事ト存候此等兵員募集ノ当初ハ日本政府ノ命令（寧承認カ）アルカノ如キ勢ニテ其幹部ハ往々口ニ洩候事モ有之現ニ當陸軍部ノ節度ニ從ヒ進退候様相見居候故當警察側ニ於テモ黙過致来候処目下ニテハ何分多數ノ兵員長時日ニ渡リ何等ナスコトナクシテ集團致居候始末故三々伍々晝夜市中ヲ逍遙シ從而無錢飲食喧嘩暴行等警察ノ煩累日増ニ相成リ加之ニ近來山東方面ヨリ革命党跡始末ノ人員ヲ當方ニ放致スル傾向相生シ此兩三日前モ三四五名ノ苦力体革命党兵員ヲ大連ニ送還ノ名義ニテ輸送相成候、取調ノ処悉皆山東ニテ募集ニ応ジタル者ナルコト判明致候故（一

滿洲ニ於ケル宗社党革命党等ト關係セル邦人

ノ取締等ニ関シ黎總統トノ談話報告ノ件

第六五三号

七月八日本使ハ暇乞ノ為黎總統ニ謁見シ種々打解ケタル談話ヲ交ヘタルカ其内山東及滿洲ニ於ケル日本浪人ノ無謀ナル行動ハ甚シク支那官民ニ誤解ヲ与ヘ兩國々交上ニモ面白カラサル影響ヲ及ボスコトナキヤト懸念シ居ルニ付何トカ今少シ適當ノ取締ヲ加ヘラルルコト出来間敷キヤト懇願的ニ述フル所アリシニ依リ本使ハ袁政府願覆ノ目的ヲ以テ活動セル貴國革命軍中下等日本人ヲ雇用シ居ル者アル由ナルモ今ヤ革命反抗ノ目的タル袁總統モ逝去シ南北ノ妥協モ不日完成セントシツツアルコトナレバ是等情力ヲ以テ残存セル余波ハ遠カラズ消滅スルナラント考ヘラルルモ御話ノ次第ハ本國政府ヘ轉達スヘシト答ヘ置キタルガ山東及滿洲ニ於ケル革命党宗社党等ト關係ヲ有スル邦人ノ取締ヲ勵行スルコトハ絶対ニ必要ト思考ス尚黎總統ハ今少シク懇談ヲ遂ケ度ニ付其内都合ヲ見計ヒ今一度來談ヲ請ヒ度ト云ヒタルガ來ル十日午餐会ニ案内スル旨次テ申來レリ

文ノ金モ持參セズ）當方ニテハ上陸ヲ拒絶シ警官ヲ付シテ再青島ニ送還致候次第ニ有之右様厄介者ヲ塗付合候様ニ相成リテハ誠ニ不体裁ニ有之唯今之内ニ當地宗社党之如キモ解散候コトニ不致候テハ隨分面倒可有之尤モ解散ニ際シ相応之金員分配等致候ハ、宜敷候得共左モナクバ矢張支那一流ノ除兵即馬賊ト相成可申當地方ノ如キハ外國人モ多人数支那人モ折角本邦治下ノ安寧ヲ喜ビ居候処餓虎ヲ市ニ放ツガ如キ事有之候テハ不面目次第ニ付御一考願度目下例之升允氏モ當旅順ニ來リ肅王ノ近所ニ仮寓致旅順大連間ヲ往復致居其他ノ幹部連モ中々急ニ解散候風ニモ不相見候故政府ノ對支策上御都合宜布候ハ、尚關東州内ニ於ケル宗社党各員ヘ今ノ内ニ解散為致ラレ候ハ、丁度魯國行苦力目下募集中ナレバ其方ニ參ル者モ多々可有之解散上モ至極都合能參可申乎ト存候右御參考迄御内信申上候

七月八日 白 仁 武
草々拝具
石井男閣下

九一〇 七月九日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

九一二 七月十八日 石井外務大臣ヨリ
在中国小幡代理公使宛

先ニ森田領事ヨリ内話ノ件ハ実行見合ニ決定

ノ旨指示ノ件

曩ニ森田領事ヲシテ日置公使ニ内話セシメ置キ候件ハ最近時局ノ變化ニ從テ実行ヲ見合スコトニ決定シ右見合ニ伴フ措置ハ徐々ニ且ツ適當ノ時機迄極秘トシテ取運フ筈ニ有之候貴官限り極内密ノ御含迄此段申進候也
追テ本書ハ御一覽後燒却相成度候

九一二 七月十八日 谷秀夫ヨリ
田中參謀次長宛（電報）

川島一派ノ解散ニ對スル大隈首相林公使上原

參謀總長、田中參謀次長ノ談話報告ノ件

（大正五年七月十九日町田少將ヨリ外務省送付）

極秘 電報 七月十八日 谷 秀 夫

次 長 宛

去ル十五日旅順ニ於テ西川參謀長川島等ト会合シ解散ノ方法及善後処分ニ付協議シ川島ヘハ此ノ際極メテ穩健ノ態度ヲトランコトヲ希望シ川島ハ目下熟慮中ニアリ然ルニ十五

日午後東京有志者ヨリ川島宛左ノ如キ電報到着シ川島一派ハ小官等ノ厚誼（抗議？）ヲ疑ヒ既ニ困難事タル解散ヲシテ益々紛糾セシメ收拾スヘカラサルニ至ラシメントス中央部ハ此際一時的欺罔手段ヲ止メ明確ニ意見ヲ發表セラレンコトヲ望ム

本日押川氏ハ林公使、上原総長、田中次長、大隈首相ヲ歴訪シ別ニ宮島、上泉、五百木氏モ上京上原総長ヲ訪問セシガ其要領略左ノ如シ、林公使ハ多大ノ同情ヲ有シ且今日俄ニ解散ヲ強フルガ如キハ斷シテ不可ナレバ自分ヨリモ本日直ニ外相ニ警告スヘシト曰ヘリ又田中次長ハ福田ノ言明ノ如キハ本部ニ於テ全ク関知セサル所ニシテ且ツ今日解散ヲ行フ如キコトハ何等命令セシ事実ナシト明言シ且万一西川少將等カ輕率ノ行動ヲナシテ間違ヲ生シテハ大事ナリトシ念ノ為押川到着ノ上貴兄等ト会合スル以前貴兄ニ対シ輕率ナル交渉ヲ開始セサル様注意ヲ伝告セリ而シテ大隈首相モ亦今日ノ解散ヲ否認シスル輕率ヲ採ラシメサル様総長及公使ニ夫レ夫レ注意シ置クヘキコトヲ堅ク警告セリ、上原総長ノ談ニ依ルモ今日直ニ解散ヲ決行スルノ意思ナク彼ハ一ツニ首相ノ意思如何ニ存スル旨答ヘタリ兎モ角福田ノ言ハ

九一四 七月三十一日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

日本人中国人拳兵及長春城占領ノ情報ニ接シタルニ付外務大臣ヨリ関東都督ヘ訓令方稟請ノ件

別電 同日山内領事宛石井外務大臣宛別電

山内領事ヨリ中村関東都督宛電報全文

第六八号

曩ニ森田領事ヲ以テ御訓令ノ態度ハ取消ノ趣過日御訓令ニ接セル処十余日前ヨリ漸次当地ニ特殊本邦人及支那人来集シ殊ニ昨日今日ニ掛ケ右党派ノモノ（石本権四郎及津久井平吉ノ派ナリト云フ）入込ミ其数三百余名ニ達シ尚本日大部隊ノ来着アルヘク今夜愈々拳兵決行長春城ヲ占領スヘシトノコトナリ本官ノ執ルヘキ態度ハ前掲取消ノ御訓令ニヨリ明瞭ナルニ付何等拳兵ノ事ハ全ク一部不平等ノ計畫ト存シタルニ付右抑圧方ニ付関東都督府陸軍部ヲ通ジ其向ヲ交渉セシムル方最穩便ト信シ右ニ関シ既ニ數回往復シ西川參謀長ニ於テモ嚴重取締ルヘキ旨回答ニ接スルニ付大方針ハ其成行ニ任セ只万一ノ場合ニ応スル取締方法ノミヲ講シ居

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 九一四

全ク其場通レノ虚言ヲシク昨今解散ヲ行フ如キコトアラハ夫レハ全ク出先ノ連中ノ行動ニシテ中央部ノ命令ニアラサルコト明カナリ押川ハ明十六日發貴地ニ急行スヘケレバ詳細ハ一切同氏ヨリ聞取ラレタシ

九一三 七月二十二日 西川関東都督府參謀長ヨリ
田中參謀次長宛（電報）

川島一派ノ首腦ヲ參謀本部ニ招キ滿洲拳事ニ関スル方針ヲ明確ニ指示セラレタキ旨上申ノ件

廿日谷ノ電報ニ対スル貴電報受領ス要スルニ中央当事者川島一派ニ対シ明確ニ意圖ヲ示ササルニアラサレハ彼等ハ唯小官等ノ言ヲ信セサルノミナラス裏面ヨリ妨碍シ谷ニ対シ脅迫ノ行動ヲナスモノ等アリ押川氏モ解散ニ決シタルコトハ貴部ニテ聞キシモ極秘トシテ他言ヲ禁セラレアルヲ以テ之ヲ他ノ同志者ニ漏ラスヲ得スト云ヘリ此ノ如キ秘密主義ハ実行ヲ益々紛糾セシムルモノナルヲ以テ此際各大臣各個ニ曖昧ナル返答ヲ彼等ニ与ヘサル方法ヲ講スルト共ニ彼等ノ首腦ヲ貴部ニ招キ滿洲拳事ニ関スル方針ヲ明確ニ指示セララルコト切望ニ堪ヘス

タリシニ前掲ノ如ク愈々今夜拳兵ノ報ニ接セルヲ以テ憂慮ニ堪ヘズ別電ノ通関東都督宛ニ電報セリ就テハ関東都督ニ於テ然ルヘク手配セラルルコトトハ信スルカ尚閣下ヨリモ都督宛御訓電ノ上当地方ニ於テスル暴拳ヲナサシメサル様御取計ヲ願フ

（別電）

七月三十一日在長春山内領事宛石井外務大臣宛電報

山内領事ヨリ中村関東都督宛電報全文

別電

往電第六八号中村都督宛左ノ通り

長春ノ形勢益々接迫シ昨今ニ掛ケ殊ニ乱黨続々来着シ愈々今夜拳兵ノ報ニ接セリ本官宛ニテ外務大臣ヨリハ既ニ曩ニ訓令相成タル望觀態度取消ノ訓令ニ接シタル処今夜ノ拳兵ニ付テハ当地守備隊ニ保管シアル銃器ヲモ取出ス趣伝聞シ其計畫従前ノ頃ト同筋ナルカ如ク頗ル憂慮ニ堪ヘス目下帝國政府ノ方針ハ従前ト反シ決シテ斯ノ如キ拳ヲ認容スルヲ許ササルコト明瞭ナルカ都督閣下ニ於テモ御同意見ト確信スルヲ以テ其筋ニ御嚴命ノ上右等計畫ヲ全然禁止方大至急御取計ヲ願フ尚其結果併セテ御電報ヲ請フ

九一五 七月三十一日 石井外務大臣ヨリ
中村関東都督宛(電報)

柴參政官渡滿ノ件

第七九号 極秘

柴參政官表面滿洲視察ノ名義ニテ近日渡滿貴地ニ向フ用向ノ詳細ハ直接同官ヨリ御聞取相成リ度シ

九一六 七月三十一日 西川関東都督府參謀長ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

蒙古ニ於ケル拳事ニ対スル大隈首相ノ承認ニ

関シ問合ノ件

甲号電報

石本ハ押川ヲ通シテ滿洲ニ於ケル拳事ハ斷シテ不可ナルモ蒙古ニ於テ自發スル拳事ハ差支ヘナシト次長及大隈首相ヨリ承認ヲ受ケ居レリトノ理由ノ下ニ長春ニ壯丁及兵器彈藥ヲ集メ今日三十一日夜ヲ期シテ事ヲ拳ケントノ模様アリ此承認ニ就テハ押川モ責任ヲ以テ言明シ居レリ果シテ其承認ヲ与ヘラレタルヤ又其承認ハ附屬地ヲ策源地トシテ差支ナキ意ナルヤ折リ返シ返

九一七 八月一日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

石本等ノ長春拳兵計画ニ対シ藤井守備隊司令官ト協議ノ上武器ノ強制保管等ヲ命ジタルガ

本件処分方ニ付請訓ノ件

別電一 八月一日山内領事宛石井外務大臣宛電報第六

九号ノ別電

二 山内事務官ヨリ都督宛電報第一号及第二号ノ全文報告ノ件

第六九号

昨夜当地ニ於テ拳兵ヲ計画セルハ石本(樵四郎)津久井佐竹森渡辺ノ一派ニシテ既著ノ邦人五十八名支那人二百余名竝昨夜九時過ノ汽車ニテ公主嶺四平街其他南方ヨリ当地ニ來ル筈ナリシモノヲ合シテ一千余名ヲ以テ事ヲ拳ケ武器ハ彼等ガ各散宿所ニ隱匿セル分竝旅順要塞司令部ヨリ送附ノ官用品トシテ公然去ル二十九日当地守備隊ニ持込メル機關銃二門彈藥二十五函其他ヲ用ヒ(夜襲用彈藥中ニハ帝國政府ノ御方針變更以前ニ当地守備隊ニ持込ミ現存スルヲ含メルヤ否ヤハ不明)真夜中ヲ以テ守備隊裏ニテ勢揃ヒヲ為シ

都督宛電報第一号及第二号全文

別電第一号

先刻報告セシ通り長春ノ形勢益々危險ニ迫リタル故輕率ヲ戒ムベク守備隊憲兵隊ト協力シ日本ノ手ニ依リ砲銃器彈藥ヲ全部提供セシメ保管スルコトトシ彼等モ今夜ノ拳兵ハ斷念スル旨誓言セリ但シ尚引続キ警戒中先刻ノ稟申ニ対シ至急何分ノ御回訓ヲ請フ

別電第二号

石本等ニ対スル向後ノ処置方決定ノ為メ此際陸軍側ノ可然人ヲ当地ニ急派セラレタシ若シ右御差支アラバ尠クモ藤井司令官ニ閣下ノ御方針ヲ授ケラレ本官ト協議ノ為メ当地ニ出張ヲ命セラレタシ

九一八 八月一日 在本邦露国大使館ヨリ
日本外務省宛

宗社党運動ニ関スル日本政府ノ意嚮承知シタ

キ件

(訳文)

覚書

在滿洲露国官憲ハ諸方面ヨリ左ノ情報ヲ入手シタリ

(別電)

八月一日在長春山内領事宛石井多務大臣宛電報山内事務官ヨリ

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ拳事動靜ニ関スル件 九一八

滿洲及蒙古ニ於ケル宗社党運動ハ日本ノ保護国トシテ東三省及内蒙古ヨリ成ル滿朝帝国ヲ建設スルノ目的ヲ以テ日本人ニヨリ組織セラレタルモノノ如ク日本ハ右宗社党ニ対シ金銭及武器ヲ供給シ且ツ軍隊ノ教育並軍事行動指揮ノ為將校ヲ貸与スヘシトノコトナリ又該運動ノ首腦ハ肅親王ニシテ其ノ本部ハ大連ニ在ル由ナリ

宗社党ハ現在日本人ヨリ軍事教育ヲ受ケタル一万五千ノ滿人ヲ有スルモ追テ其數ヲ三万ニ達セシメ且ツ之ト同數ノ予備兵ヲ作ルノ企圖ヲ有スルモノノ如ク滿人軍隊ノ間ニ熱心ナル遊説ヲ行ヒ奉天吉林及齊々哈爾ニ於ケル有力ナル將軍ノ共助ヲ得ルニ努メ在齊々哈爾許蘭洲將軍ハ宗社党ニ對抗スル為軍隊ヲ派遣スルコトナカルヘキ旨既ニ約定シタリト察セラル而シテ宗社党ハ先ツ吉林省ニ於テ其軍事行動ヲ開始セシトスルトノコトナリ

新滿洲帝国ハ東三省ヲ包含スヘシトノ日本人ノ声明ニ鑑ミ宗社党ニ於テハ日本ハ果シテ本問題ニ付露国ト同意見ナルヤ否ヤヲ查明センコトヲ望ミ又若シ同意見ナラストセハ本件宗社運動ニ対シ露国ノ執ルヘキ態度如何竝若シ該運動ニシテ齊々哈爾及呼倫貝爾兩州ニ波及ストセハ露国ハ之ニ対

既ニ熟知シアル通ナリ依テ貴官ハ能ク此意ヲ体シ所屬官憲ヨリ別命ナキ以上ハ妄ニ私人ノ言ヲ信シテ彼是顧慮スルノ必要ナシ鐵道附屬地ヲ策源地トシテ事ヲ挙クルカ如キハ決シテ黙許スベキニ非ザルコト勿論ナリ

九二〇 八月一日 在大連石本鐵太郎ヨリ
小池政務局長宛(電報)

在長春領事ニ依ル武器彈藥ノ押収ニ付質問ノ件

昨夜長春領事猥ニ我所屬ノ武器彈藥總テヲ押収シタル為ニ多年ノ苦心ト多額ノ出費ハ水泡ニ帰セシノミナラス嘗テ御承諾ニ基キ計畫シタル大事件ヲ根本ヨリ破壊スルニ至レリ是レ果シテ貴下ノ命令ニ基ケルヤ若シ然リトスレハ無沙汰押収ヲ斷行セシメシ理由如何サモナクシテ出先領事ノ独斷ヨリ起リシコトナレハ押収物一切直ク被害者ニ返セト電命ヲセヨ事ヲ曖昧ノ間ニ附センカ治安上頗ル寒心スヘキモノ生セン善後法ヲ誤リ禍害ノ生セシトキハ全責任ノ歸スル所当局者ノ双肩ニアリ明答ヲ待ツ

九二一 八月二日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ拳事動靜ニ関スル件 九二〇 九二一 九二二

シ如何ナル処置ニ出ツヘキヤヲ確カメンコトヲ欲スルモノノ如シ尚一切ノ準備ハ八月迄ニハ完了スル筈ニ付本月ヲ以テ大仕掛ノ軍事行動開始セラルヘシトノコトナリ滿洲ニ於ケル宗社党運動ニ対シ露国ハ如何ナル態度ヲ執ラントスルヤヲ知ランガ為既ニ諸方面ヨリ露国政府ニ対シ申出テノ次第モアルニ付「ペトログラード」政府ハ日露兩國ニ関スル本問題ニ付共通ノ見解ヲ立テンカ為本運動ニ対スル日本国政府ノ意嚮ヲ承知センコトヲ望ム

東京ニ於テ

千九百十六年八月十四日

九一九 八月一日 田中參謀次長ヨリ
西川關東都督府參謀長宛(電報)

拳事團ノ解散並鐵道附屬地ヲ策源地トシテノ拳事ノ禁止方ニ付訓令ノ件

乙号電報
至急極秘(親展)
目下ノ情況上滿蒙ニ於テ新ニ事ヲ挙クルノ必要ナキノミナラス対支善後政策上ニ不利ヲ来スコト渺カラサルヲ以テ該拳事團ヲ速ニ解散スルコトニ決定セラレアルコトハ貴官モ

長春拳兵計畫ノ武器彈藥ノ押収措置ニ関シ向後ノ方針請訓ノ件

第七〇号
往電第六九号ニ関シ其後閣下ヨリモ又關東都督ヨリモ何等御訓令ニ接セサル処何分三百数十名ノ人員附屬地内ニ集合セル結果附屬地内ハ勿論支那街ノ人心非常ニ動揺シ居リ種々ナル流言アリ本官力取締上必要ナル臨機処分ヲ執リタル後既ニ一晝夜半以上ヲ經過セルニ拘ハラス形勢変化ナキカ為支那側ニ於テハ我中央官憲ノ態度ニ付テモ疑ヲ挾メル模様ニ付至急ニ本件処分ヲ決スル必要アリ本官向後ノ方針ニ付折返シ何分ノ御訓電ヲ請フ尚本件ニ関シ都督府其他ト御交渉ノ次第アラハ本官心得ノ為御知ラセヲ願フ

九二二 八月二日 石井外務大臣ヨリ
在長春山内領事宛(電報)

長春拳事計畫ニ対スル措置ヲ適當ト認ムル旨回訓ノ件

第六〇号
貴電第六九号ニ関シ貴官ノ執ラレタル措置ハ適當ト認ム本件ニ付テハ關東都督府ヨリ參謀本部へ別電第六一号ノ通電

報アリタルニ付之ニ対シ八月一日同部ヨリ別電第六二号ノ
通返電セリ就テハ貴官ハ右返電ノ趣旨ヲモ御含ノ上此上共
適宜措置セラレタシ

九二三 八月三日 幣原外務次官ヨリ
白仁閣東都督府民政長官宛(電報)

在長春領事ニ依ル武器彈藥押収措置ハ不当ニ
非ザル旨石本へ轉達方ニ関スル件

第八三号

八月一日在大連石本鎮太郎ヨリ政務局長宛電報ヲ以テ長春
ニ於ケル武器彈藥押収ニ依リ多年ノ苦心多額ノ出費水泡ニ
帰シ嘗テ承認ヲ經タル本計画根本ヨリ破壊セラレタルハ同
局長ノ命令ニ基クヤ若シ然ラハ右無斷押収ノ理由如何若シ
又領事ノ專斷ナラハ直チニ押収品返還方同官ニ電訓アリ度
ク事ヲ曖昧ニ附スレハ治安上頗ル寒心スヘキモノ生セン善
後ヲ誤リ禍患生セハ当局者全責任ヲ負フヘキモノナリトテ
明答ヲ求メ来レリ就テハ至急貴官ヨリ適當ノ方法ヲ以テ左
ノ通石本へ轉達相成リ度シ尚本計画ハ当方承認ヲ經タル如
ク申述ヘアルモ右当方ニテ全ク関知セサルコトナルニ付右
ニ御含アリタシ

チ同夜半ヲ期シ愈々舉事ニ決セリトノ急報ニ接シ直ニ藤井
少將宛領事要求ニ応セシメラレタシ但シ成ルヘク温和ニシ
テ世人ノ視聽ヲ引カサル手段ヲ執ラシムルヲ要スト電報セ
リ斯クテ舉事ハ未然ニ防止セラレタリ目下長春ニ集合セル
モノヲ解散シ善後ノ処置ヲ為サシムル為メ三日朝田村參謀
ヲ長春ニ派遣セリ此舉事ハ他ニ關係ナシ兵器ハ石本等カ自
ラ調弁セシモノニテ領事ハ之ヲ押収セシモノニアラス一時
預リシモノノ如シ解散後ニハ之ヲ還付シテ之ヲ大連ニ還送
セシムル筈ナリ兵器ノ輸送小林大尉ノ關係等ハ取調ノ上報
告ス

九二五 八月四日 白仁閣東都督府民政長官ヨリ
幣原外務次官宛(電報)

在長春領事ノ措置ノ正当ナルヲ石本ニ傳達濟
ノ件

九二六 八月四日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

長春騷擾事件關係者ノ解散方石本ヨリ申出ア
リタル旨報告ノ件

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 九二五 九二六 九二七

「滿蒙舉事計画ハ支那全般ニ於ケル形勢ノ變化ニ伴ヒ之ヲ
実行スルコト我對支政策上不利ナリト認メ政府ニ於テ斷
然之カ実行ヲ停止シ舉事團ハ之ヲ解散スルコトト決定シ該
計画直接担当ノ任ニ當レル者ヲシテ既ニ關係者ニ轉達セシ
メタル次第ナリ從テ政府ニ於テ方ニ之カ善後ノ方法ニ付篤
ト考慮ヲ廻ラシ居ルニ當リ右政府ノ意圖ニ反シ舉事実行ヲ
敢テセントシタル者ニ對シ領事カ其職權上執リタル処置ハ
毫モ不当ナルモノニ非ス」

九二四 八月三日 西川閣東都督府參謀長ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

石本等ノ長春舉事計画ハ未然ニ防止セラレタ
ル旨報告ノ件

滿洲蒙古舉事中止ノ趣旨ヲ石本ニ伝ヘシ後山内領事ヨリ、
石本ノ一派長春附近ニテ舉事ノ企圖アル故之ヲ中止セシム
ヘク要求アリシヲ以テ直ニ石本ニ注意シ置ケリ然ルニ石本
ハ首相及ヒ參謀次長ノ内諾ヲ得居ルモノト自信シテ其計画
ヲ進メツツアリシモノノ如ク七月三十一日藤井少將ヨリ山
内領事ノ要求ニ依リ石本一派ノ兵器押収ノ為メ兵力ノ援助
ヲ為サムトストノ電報ニ接シ未タ其返電ヲ發セサルニ先立

第七二号(八月五日接受)

長春騷擾事件ノ張本人タル石本大連市長ト都督府陸軍部ト
ノ交渉ノ結果石本ヨリ自ラ解散ヲ実行スヘキ旨申出タル趣
ヲ以テ右解散ヲ監視シ且促進スルカ為本日田村參謀当地ニ
到着セリ參謀ノ伝ヘタル都督ノ方針ニテハ本官カ取上ケシ
メタル銃器彈藥及予テ騷亂用ノ為官用品トシテ当地ニ送越
シ守備隊内ニ保管シアリ当夜使用ヲ許スヘカリシ機關銃其
他ノモノハ之ヲ關東州内指定ノ地点ニ取纏メテ送還スルコ
ト右ニ對シテ若シ必要トアラバ輸送上官憲ニ於テ便宜ヲ与
フルコト及陰謀關係ノ日本人ニハ退去ヲ命シ且支那人中頭
目等モ同斷トスヘキモ末輩ノ支那人ニハ当地ニ於テ解散ヲ
命シ之ヲ附屬地外ニ追放スルコト等ヲ大綱トセルガ右ノ内
末輩ノ支那人ヲ当地ニ於テ附屬地外ニ追放スルコトハ異存
アルヲ以テ別電^(註)ノ通事務官ノ名義ヲ以テ本官ヨリ都督宛電
請セリ右御含迄ニ

註 別電記録ニ存セズ

九二七 八月五日 石井外務大臣ヨリ
在長春山内領事宛(電報)

柴參政官ハ病氣ノ為渡滿遲延ノ件

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 九二八 九二九
第六五号

貴電第七三号ニ関シ柴參政官ハ病氣其他ノ都合ニテ渡滿遅
ルコトナレリ御含アリタシ右ハ大連石本等へ転電方白
仁民政長官へ電訓セリ

九二八 八月五日 西川関東都督府參謀長ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

石本等拳事団ノ解散措置ニ付報告ノ件

附記 解散方法ニ関スル提案

極秘親展

長春拳事団ノ善後措置ニ付田村參謀ト領事石本等ト交渉ノ
結果大要左ノ通り決定ス

支那人ニハ石本ヨリ旅費及手当ヲ給シ且各自所有ノ兵器ヲ
携行シテ解散シ日本人ハ遅クモ六日中ニ解散シ差向キ就業
ノ見込ミナキ者ハ大部分牛心台炭坑ニ収容スル筈ナリ

(附記)

提案

一、滿洲ニ於テ徵收セシ人員ハ協力ノ上此際可成急速ニ解
散セシムルコト

但シ此解散費ハ政府ニテ支弁スルコト

九〇〇

二、蒙古軍ニハ別ニ相当ノ金員及能フヘクンハ若干ノ兵器
ヲ与ヘテ彼等ヲ慰藉シ時機到来迄一応我勢力圏外ニ引退
セシムルコト

但シ此ノ費用ハ政府ニテ支弁スルコト

三、将来再ヒ舉事ノ必用ヲ認ムル場合ハ今回同シク政府
ニ於テ適宜ノ援助ヲ与フル意味ヲ充分誠意ヲ以テ説得シ
彼等ニ對シテ前途ノ希望ヲ与フルコト

之ニ関シ彼等ヲシテ安心セシムル一方法トシテ大連ニ
在ル兵器ハ当分其儘都督府ニ保管シ置クコト

四、肅王ノ借款ヲ存続セシメ其金額全部ヲ此際肅王ニ引渡
スコト

但シ此内ヨリ從來川島ニ於テ使用セシ分ヲ差引クコト

(欄外註記)

「在京關係者ヨリ田中次長へ提出シタルモノ、大正五年八月八
日本庄中佐宛返送セリ」

九二九 八月十日 小池政務局長ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛

長春騷擾事件解決ノ為上泉海軍中將及五百木
良三ヲ派遣ノ件

拜啓陳者七月三十一日往電第九九号柴參政官ノ渡滿ニ前後
シテ上泉德弥(予備海軍中將)及五百木良三ノ兩名本件円
滿解決ニ斡旋スルガ為貴地方ニ赴ク筈ニ有之候ニ付貴館へ
出頭ノ場合ニハ御引見ノ上相当御応接相成度此段予メ得貴
意置候 敬具

九三〇 八月十一日 白仁関東都督府民政長官ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

大連宗社党ハ解散命令ニ服從セザルニ付派遣

員ハ十分ノ覺悟ト力量ヲ要スル件

大連宗社党二千余人ノ解散ハ夙ニ政府ノ御方針ト承ルモ川
島ノ輩ハ今ニ命令ニ服從セス押川モ行動明白ナラス西川參
謀長独リ板挾トナリ苦心慘怛ニ見受ケラル此度外務省參謀
本部ヨリノ派遣員ハ十分政府ノ趣旨ヲ徹底スルノ覺悟ト力
量トナケレハ其使命ヲ全ウスル困難ト存ス右内報ス

九三一 八月十二日 石井外務大臣ヨリ
白仁関東都督府民政長官宛(電報)

柴參政官及浜面大佐解決案ヲ持シ旅順ニ向ヒ

タル件

第八八号

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ舉事動靜ニ関スル件 九三〇 九三一 九三二

九〇一

十一日貴電閱悉本件ニ関スル政府ノ真意ヲ篤ト關係者側ニ
貫徹セシムル為柴參政官及參謀本部浜面大佐十一日東京発
渡滿セリ尚關係同志ノ代表者ト目スヘキ上泉德弥五百木良
三ノ兩名モ篤ト參謀本部等ト協議ノ結果彼等ニ於テ川島ヲ
モ納得セシメ得ヘシト信スル解決案ヲ得テ之ヲ齎シ是亦前
記両官ト前後シテ当地ヲ発シ貴方面へ向ヒタルニ付右ニ御
含アリタシ

九三二 八月十六日 西川関東都督府參謀長ヨリ
田中參謀次長宛

滿蒙拳事団ノ解散ニ関シ報告ノ件

滿蒙拳事団解散ニ関スル件報告

大正五年八月十六日

関東都督府陸軍參謀長 西川 虎次郎

參謀次長 田中義一殿

八月十六日午前十時三十分ヨリ柴參政官浜面大佐上泉德弥
押川方義五百木良三及小官会同シ解散ニ関スル協議ヲナシ
タル後之ヲ川島ニ伝ヘ同人ヲシテ承諾セシメタリ其結果ハ
柴參政官及浜面大佐ヨリ報告セシ管ナルヲ以テ茲ニ再録セ
ス其結果兵器ヲ蒙古軍ニ支給シ我勢力圏外ニ退避セシムル

(記註外欄)

コトトナリシヲ以テ本職ニ於テ保管セル分使用予定兵器ノ中ヨリ左ノ数ヲ支出シ之ヲ四平街ニ輸送セシム

歩兵銃(附屬品共) 壹千貳百挺

同彈藥 貳拾四萬發

野 砲(附屬品共) 四門

同彈藥 榴彈百八拾發

同 榴霰彈參百八拾發

手榴彈 百發

目下蒙古軍ハ郭家店ヲ占領シ支那兵之ヲ攻撃中ナリ然ルニ蒙古軍ハ彈藥欠乏シ戰鬪繼續ヲ不利トスルヲ以テ当地滞在中ナル菊池中佐ノ奉天ニ帰還スルニ托シ張督軍ニ蒙古軍ト休戦シ同軍ノ退避ヲ待タシムヘク勸告セシメタリ
蒙古軍ハ兵器ノ支給ヲ受クレハ直チニ西方ニ退避スル筈ナリ

右報告ス

(欄外註記)

「之ハ是迄ノ話合トハ全然相違シ居ルノミナラズ今日(八月廿一日)迄何等報告ニ相接セズ其旨町田中将ニ注意シ置キタリ」

キ二万円ノ不足ハ是非御支出ノ切望ス

九三五 八月十九日

石井外務大臣ヨリ
白仁閣東都督府民政長官宛(電報)

長春騷擾事件ノ解散条件詳細電報アリタキ件

第九二号

八月十七日都督府參謀長發電ニ係ル柴浜面ヨリ參謀次長宛電報ニヨレハ川島等ト熟談ノ結果八月九日ノ原案ヲ基礎トシ之ニ幾分ノ修正ヲ加ヘ相談成立シタリトノコトナルガ右解散条件詳細本人等ヨリ御聞取ノ上電報アリタシ

九三六 八月二十一日

白仁閣東都督府民政長官ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

長春騷擾事件ノ解散条件ニ付報告ノ件

第八四号

一、曩ニ協定セシ『滿洲ニ於テ徵集セル人員ハ此際可成速ニ解散セシムルコト但シ此解散費ハ肅王ノ負担タラシメサルコト』ニ『解散後肅王之ヲ傭ヒ六十日間ニ追解散ス此者ヲ多数同時ニ解散スルトキハ予メ民政長官若クハ參謀長ト協議シ地方ノ安寧ヲ保持スル手段ヲ講スルコト』ヲ追加ス二、曩ノ協定『蒙古軍ニハ適當ノ処置ヲ以テ一応我勢力圍

一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ挙事動靜ニ関スル件 九三三 九三六 九三七

九三三 八月十七日 西川閣東都督府參謀長ヨリ
田中參謀次長宛(電報)
長春騷擾事件ハ円滿解決ノ旨報告ノ件

極秘

川島等ト熟談ノ結果八月九日原案ヲ基礎トシ之ニ幾分カノ修正ヲ加ヘ相談成立シ懸案円滿ニ解決セリ其修正ノ条件及理由ハ筆記シ郵送ス

肅王ニ交付スヘキ七十五万円ハ直チニ交付ノ手續ヲ採ラレタシ外務ヘハ貴官ヨリ通知ヲ請フ 柴浜面

九三四 八月十七日

谷秀夫及浜面陸軍大佐ヨリ
町田陸軍少將宛(電報)

拳事団ノ解散費ニ付依頼ノ件

御指示ニ基キ解散費ヲ最少限度ニ積算セシモ一〇一五七円ヲ要シ之レニ今日以後八日マデニ支払フベキモノ三萬五千円及蒙古軍ニ与フヘキ五万円ヲ加ヘ計一八六六七七円ハ如何ニシテモ削減シ難シ而シテ貴地ヨリ支出シ得ヘキ七六万円ヨリ肅王ニ送ルヘキモノヲ差引ケル残額一万円ヲ当方現在殘金一五二六三九円及現役者ノ旅費並ニ通信費トシテ貴部ヨリ払戻ヲ受クヘキ三千五百ニ加ヘ支弁スルトキ生スヘ

外ニ引退セシムルコト』ヲ『蒙古軍ニ兵器ヲ与フルコト之カ条件トシテ我勢力圍外ニ引退セシムルコト兵器支給ノ方法ハ參謀長ニ任ス兵器ノ數量ハ価額五万円以内ナルコト』ニ改ム

三、『大連ニ在ル兵器ハ当分其儘都督府ニ保管スルノ手段ヲ講スルコト』ヲ『大連ニ在ル兵器ハ蒙古軍ニ与ヘシモノヲ除クノ外ハ当分都督府ニ保管ス』ト改ム

四、ハ曩ノ案ノ通り即チ『肅王ノ借款ヲ持續セシメ其ノ金額全部ヲ此際肅王ニ引渡スコト但シ此内ヨリ從來川島ニ於テ使用セシ分二十五万円ヲ差引クコト

以上ハ本日浜面ヨリ聞キタル所尤モ四日前柴參政官小官ヲ訪問シテ話纏マリタリトテ示サレタルモノト同様ナリ

九三七 八月二十一日

西川閣東都督府參謀長ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

滿蒙拳事団ノ中国人ハ八月二十五日ニ又日本

人ハ同月末迄ニ解散ノ事ニ決定ノ件

極秘

滿蒙拳事団中支那人ハ八月二十五日、日本人ハ同月尽日解散セシムルコトニ決定セリ大連寺兒溝収容ノ者ハ川島ニ於

テ一時雇入レ逐次解散セシム

郭家店附近ノ蒙軍ハ十九日朝迄ニ兵器交附ヲ終リ彈藥ノ分配及隊伍ノ整頓中蒙匪ハ二十日以来支那兵ノ攻撃ヲ受ケ今日尚戰鬪中ナルヲ以テ先ツ之ヲ中止シ且蒙軍ノ退避ヲ容易ナラシムル手段ヲ採リツツアリ

金二十五万渡ス件承知

九三八 八月二十二日

浜面陸軍大佐ヨリ
町田陸軍少將宛(電報)

日本人ノ解散費ノ不足額ニ付依頼ノ件

解散実施ニ當リ日本人ノ為三千三百六十円支那人ノ為六百五十円ノ増加支出ヲナササルヘカラサルニ至リ尚死亡日本人ノ吊慰金解散宣告ノ為日本人招致及会食費奉事準備間奔走セシ部外日本人招待費等計二千五百円ヲ要ス故ニ其方面ヨリ調達スル金額五十万円ナリトセハ結局不足額ハ三万七千四十八円ニシテ十七日發電ノ不足額二万五千三百三十八円ニ對シ六千五百十円ノ増額ヲ要ス

九三九 九月六日

在中国林公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

長春騷擾事件並鄭家屯事件ニ関シ意見具申ノ

件

附記

九月二十八日西原龜三氏提出ノ意見書

滿蒙ニ於ケル蒙古軍並宗社党ト日本軍及日本人

ノ關係

附 鄭家屯事件ノ真相

第七九五号 極秘

(九月八日接受)

最近滿洲ニ於テ發生セル兩度ノ軍隊衝突事件カ日支兩國ノ關係ニ漸ク一新紀元ヲ開カントスル時機ニ於テ將又本使カ微力ヲ兩國々交ノ改善ニ致サント欲シ聊カ抱負ヲ持シ新ニ臨任セル劈頭ニ於テ突如トシテ發見セルハ申迄モナク本使ノ深く遺憾トスル所ナリ殊ニ兩事件トモ当初ニ於テ我出先軍憲其他カ今少ク慎重周到ナル考慮ヲ加ヘタランニハ恐ラクスル不祥事ノ發生ヲ避ケ得タルヘシト思ハルモノアルニ至リテハ本使ハ益々遺憾ノ念ヲ深クス元來鄭家屯事件ニ付テ見ルモ事件ノ起リハ我一商人ト支那兵トノ間ニ起レル普通有リ勝ノ衝突ニ外ナラスシテ要スルニ單純ナル一ノ民事事件ニ過キス然ルニ河瀨巡查カ從來ノ慣行トハ云ヒナカラ當該地方官憲ニ交渉スルコトヲ為サス直接軍隊ニ向ヒテ談判ヲ試ミントシ剩ヘ其ノ行動ノ頗ル常規ヲ逸シタルモノ

アルカ如キ又出先軍隊カ一巡查ノ請求ニ応ジ左程事態ノ切迫シ居ラサリシニ拘ハラス何等上司ノ訓令ヲモ請ハルルコトナク輕々シク國家ノ兵力ヲ動カシ延テ不幸ナル此ノ大衝突ヲ惹起シ終ニハ自ラ守ルニ堪エサルカ如キ危險ナル事態ヲ現出シ大部隊ノ出兵ヲ余儀ナクセシメタルハ其ノ当初ニ於テ行動ノ甚シク輕卒ニ失シ頗ル用意ノ慎重ト周到トヲ欠キタルハ云フ迄モナク其ノ責任決シテ輕シトハ認メラレス殊ニ本使ノ最モ不審ニ堪ヘサルハ我外務省巡查カ斯ル場合ニ於テ何等出兵ヲ要求シ得ルノ權限ナキニ拘ハラス守備隊長ガ輕々シク之ニ応シタル点ニシテ平生我陸軍當局ハ在滿洲出先軍隊ニ對シスル行動ノ自由ヲ許容シ居ラルル次第ナリヤ本件ハ將來ニ於テ重要關係アル事柄ニ付一應我陸軍當局ノ意見承知シ置クノ必要アリ尚事後ニ於テ増遣隊司令官カ執ラレタル措置ニ関シテモ聊カ議スヘキノ点ナキニアラサルモ此等ハ別ニ論スルノ機會アルヘキヲ以テ姑ク之ヲ差控フルコトトシ次ニ新河口事件ニ関シテハ未タ詳細ナル調査報告書ニ接セサルヲ以テ輕々ニ之ヲ批評スルハ本使ノ好ム所ニアラサルモ本使ヲシテ忌憚ナク言ハシムレハ先ツ第一ニ關東都督カ蒙軍退却ノ際ニ我監視隊ヲ附シタルノ一事

ハ蒙古軍ニ對スル從來ノ行懸等種々ノ理由ハアリタランモ蒙支兩軍衝突ノ場合ニ至ラハ自然軍隊ヲシテ衝突ノ渦中ニ捲込マルヘキ危險アルヲ予想シテ相當ノ考慮ヲ払ハレサリシハ本使トシテ遺憾ニ感スル所ナリ元來蒙支兩軍ノ妥協ニ斡旋シタルハ適宜ノ措置タルモ妥協後ノ事迄余リニ深入リシ過キ自ラ危險ノ地位ニ投シタルノ嫌アルハ聊カ用意ノ周到ヲ欠キタリトシテ議スヘキモノナキニアラス殊ニ蒙軍ノ退却ニ我監視兵ヲ附シタルハ只サハ蒙匪及宗社党ト我方トノ間ニ何等カ氣脈ヲ通シ居ルニアラスヤトノ疑念ヲ懷キ居リタル支那官憲ニ一層疑惑ヲ深カラシメタルノミナラス蒙軍退却ト略ホ同時ニ我守備軍カ其方面ニ演習行軍ヲ開始シタルノ事實及川島カ数百名ノ支那無賴漢ト我浪人トヲ率ヒ突然郭家店方面ニ現ハレ蒙軍ト宗社党トノ結合ヲ企テント試ミタル事實ノ如キハ支那側疑惑ノ根柢ヲ益々深カラシメタルハ勿論ナルノミナラス昨今支那側カ極端ナル神經過敏ニ陥リ居ル際我方トシテ再三彼等ノ疑惑ヲ深カラシムル如キ行動ヲ敢テセシハ頗ル議スヘキモノアリト斷言セサルヲ得ス就中本使ノ最意外ニ堪ヘサルハ滿洲ニ於ケル宗社党ノ秘密計画ハ曩ニ帝國政府ヨリ無事解散ニ決シタル旨ノ報告

ニ接シタル矢先川島等ノ此ノ行動ハ我政府承認ノ下ニ行ハレシ次第ナリヤ若ハ彼等カ勝手ニ行動ヲ開始シ滿洲我官憲ニ於テ事前ニ之ヲ阻止シ得ルノ機会ナカリシ次第ナリヤ此点ハ後日ノ為本使ノ参考トシテ實際ノ事情承知シ置キタキ所ナリ

之ヲ要スルニ本使ハ徒ラニ弁ヲ設ケテ事後ニ論評ヲ試ムル次第ニハアラサルモ滿洲問題ノ根本解決ハ本邦一部ノ過激論者ノ考フル如ク爾カク急速ナル解決ヲ試ムルノ必要ナク又余リニ之カ解決ヲ急クハ徒ラニ列國ノ同情ヲ失ヒ支那ノ人心ヲ乖離シ結局我外交上ノ立場ヲ危殆ナラシムルニ過キス滿洲問題ハ漸ヲ以テ進ミ公明正大ノ理由アラサル限り決シテ無理ノ行動ニ出ズルヘカラス其ノ根本解決ハ日露支三國ノ關係ニ依リ定マルヘキ問題ニシテ日露ノ間ニ既ニ鞏固ナル了解ノアルアリ支那トテ有識者ハ既ニ其前途ヲ諦メ居ル今日帝國トシテハ必ズシモ躁急ノ態度ヲ取りテ對支外交ノ全局ヲ誤ルヲ要セス只徐ロニ氣運ノ熟スルヲ待ツモ決シテ遲キヲ恨ミサルヘシ思フニ最近六七年以來我對支外交ニ不必要ナル紛争ヲ来シ兩國ノ感情ニ甚敷阻害ヲ生シ支那ノ民心ヲシテ著シク我ニ對シ險惡ナラシメタルハ本使ノ聞ク

甚深ノ考慮ヲ加ヘラレンコトヲ切望シテ已マサル次第ナリ尚鄭家屯事件ニ関シ篤ト酒匂ノ報告ヲ調査シ又同官及矢田ヨリ電報セル王鴻年トノ談話ノ概要ヲモ参照シ考フルニ当初報道セラレタル支那兵ノ殘虐ナル行動ナルモノハ聊カ誇張ニ失シ又支那兵カ我兵舎ヲ包圍攻撃セリト云フコトモ余リニ仰々敷報道セラレタリト思ハル節ナキニアラス旁々此等ノ事實ハ之ヲ前記本使意見ノアル所ト照シ合セ考ヘ更ニ鄭家屯事件全体ニ涉タリ冷靜ナル判断ヲ下ストキハ今回ノ我要求ハ少シク過酷ニ失スルカトモ思ハレ自然事ノ真相ニモ世間自ラ公評アルヘク竝ニ之ニ對スル内外ノ判断ニモ帝國政府トシテハ十分ノ注意ヲ払フノ要アルヘシ初ヨリ公明正大ノ襟度ニ依リ毫末我非ヲ蔽フノ必要ナキハ勿論我輿論ノ如キモ時ニ或ハ条規ヲ逸スベキガ成ルヘク之ヲ緩和スルコト望マシク一小事件ノ起ルコトニ徒ラニ明目張胆過激ノ論ヲ為シ政府当局モ亦或ハ自然之ニ聽從スルカ如キコト之ナキ様本使ノ切望ニ堪ヘサル所ナリ

交渉談判ノ不日開カルヘキニ先チ本使ノ感想一応御参考迄ニ申進ス

(附記)

所ニ依レハ其原因蓋シ多々アルヘシト雖漢口西村少尉事件ノ如キ昌黎事件ノ如キ兗州事件ノ如キ事ノ曲直ハ暫ク別トシ多ク出先陸軍關係ノ事件ニ胚胎スルモノノ如ク而カモ右三件ノ如キ出先陸軍官憲ニ於テ今少シク周到ナル注意ヲ加ヘタランニハ不幸ナル紛擾ヲ見ス又兩國ノ国交ヲ從來ノ如ク甚敷危殆ナラシメス事件ヲ完結シ得タリシナラント想像ス然ルニ今又滿洲ニ於テ不幸ナル事件続発シ之ニ對スル我滿洲軍憲ノ執ラレタル措置往々用意ノ周到ヲ欠キ其ノ日支ノ外交關係ニ何等ノ考慮ヲ加ヘサルガ如キ放慢ナル自由行動ト滿洲ニ於テ發生スル大小ノ外交案件ニ容喙スルノ機會アラハ常ニ之ニ干涉セントスル傾向ハ斷シテ默視スヘキ筋合ノモノニアラサルヤ論ナク過去一年間我政府ノ多大ナル苦心ト努力トニ依リ日支ノ親交ニ一転機ヲ開カントスルニ際シ我政府既定ノ方針が單純ナル軍人ノ不謹慎ナル言動ト放慢ニシテ極メテ危險ナル軍事行動ノ自由トニ依リ破壞サルルカ如キハ本使ノ痛惜措ク能ハサル所ナリ從テ今後ノ對支外交ニ関シ滿洲其他ニ於ケル我軍事当局ノ行動ハ嚴ニ其本分ノ職責ト条規ヲ逸スルコトナキ様十分ニ御注意アルノ必要アルヘク(不明)此機ニ際シ我廟議ノ特ニ此点ニ関シ

九月二十八日西原龜三氏提出ノ意見書

滿蒙ニ於ケル蒙古軍並宗社党ト日本軍及日本

人ノ關係

附 鄭家屯事件ノ真相

一、宗社党

清朝ノ覆滅後支那ニハ類老腐儒ニヨリ復辟論ナルモノ主張セラレタリト雖モ未タ宗社党ナル団体ヲ為スニ至ラザリキ時恰モ袁政府が清朝宗親所領ニ属スル滿蒙ノ土地ヲ沒收セントスルノ令ヲ下セシニヨリ肅親王ハ其所領ヲ私有財産トシテ保有セント欲シ(但シ大清會典ニヨレハ各親王所領ハ私有財産ニハ非ス)コレヲ日本ノ力ニ籍リテ實現スルヲ可トシ、川島浪速等ヲ手足トシテ謀ル処アリシガ更ニ日本陸軍ノ要路ニ是レヲ援助スルモノアリテ茲ニ初メテ宗社党ナル団体ヲ生スルニ至リシ也、而シテ清朝ヲ復興シテ滿洲蒙古ヲ獨立セシメコレヲ日本ノ保護ノ下ニオクニアリトノ口実ノ下ニ着々歩ヲ進メタリ、偶々帝國政府ハ袁世凱ニ對シ帝政延期ノ警告ヲ發シ次第デ南支方面漸ク騷擾ノ巷トナルヤ我政府ノ要路ハ支離滅裂ナル對支方針ヲ画策スルニ至レリ、即チ

(一) 上海ニ於テ支那軍艦ヲ分捕シ日本予備海軍水兵ヲ乗組
ミシメ革命ノ声援ヲ為サントセルノ策

(二) 山東省ニ於ケル土匪ヲ煽動シテ革命軍ヲ起シ騷擾セシ
トセルノ策

(三) 滿洲ニ於ケル宗社党ヲ煽動シテ滿蒙ノ獨立ヲ企図セン
トセルノ策

コレ等ノ策ヲ実行セントスルヤ滿洲ニ於ケル宗社党ハ奇貨
オクベカラズトナシ軍務当局某氏ノ斡旋ニヨリ大倉喜八郎
氏ヲ説キ滿蒙ニ於ケル肅親王ノ所領地(但シ所有權ハ不確
実ノモノナリ)ヲ抵当トシテ金百万円ヲ軍資金トシテ出資
セシメ内二十万円ヲ肅親王ニ与ヘ以テ騷擾ノ準備ニ着手セ
シメ残余ノ八十万円ハ陸軍參謀本部ノ某氏はヲ保管シ主計
ヲシテ掌理セシメタリ、而シテ此ノ騷擾釀成者首謀者トシ
テ陸軍大佐土井市之進氏(青森聯隊長)ヲ天津守備隊付ト
ナシコレニ池上大尉ヲ附隨セシメ外ニ晴氣、津久井ノ兩予
備陸軍少佐等三十余名ノ予備將校ヲ各所ニ配置シ加之八十
余名ノ浪人及ビ予備下士等ヲ集メテ徒党トナシ其本拠ヲ奉
天、旅順ニ置キ本年四月中旬ヨリ勤王軍ト称シ支那馬賊苦
力約千五百名ヲ順次募集シテ關東州租借地營城ステーション

ン附近ニ宿營セシメ連日練兵ヲナシ騷擾ノ機會ヲ窺ヒツツ
アリキ
然ルニ袁世凱ノ死歿ニヨリ其機會ヲ失スルト共ニ帝國ノ對
支方針ノ變更ニヨリ内外ノ物議ヲ招キ適當ノ方法ニヨリコ
レヲ解散セシメントスルノ議起レリ即チ此解散ヲ実行スル
ガ為メニ外務省參政官柴四郎參謀本部支那課長浜面大佐ハ
浪人組ヲ代表スル海軍予備中將上泉德弥及五百木良三ト相
前後シテ八月十一日旅順ニ到着シ關東都督府關係者ト共ニ
コレガ解決ノ方法ヲ協議セリ八月十九日愈々解散ノ協定整
ヒ宗社党幹部ニ對シテハ二ヶ月以内ニ全部解散スルノ約束
ノ下ニ巨万ノ手當ヲ給与シテ其手続ヲ了セリ從テ予備將校
連ハ一人千円乃至二千円宛ノ帰国手當ノ支給ヲ受ケテ八月
二十八日以来統々内地ニ帰還スルニ至レリ而シテ曩ニ募集
セル支那兵中約七百名ハ八月二十二日蒙古軍應援ノ為メ郭
家店ニ向ケ二回ニ輸送セラレ残余ノ八百名ハ今尚營城ニ駐
屯シツツアリ

近時關東租借地内ニ於テ強盜ノ被害頻々タルハ著名ノ事實
トナレリ、コレ上述セル宗社党ノ雇兵ノ行為ニシテ白昼公
然強盜ヲ敢行シ住民ハ堵ニ安セザル狀況ナリ

滿鉄某理事ノ憤慨シテ「都督府ハ其租借地内ニ盜賊ヲ保護
繁殖セシメツツアルモノナリト」

二、蒙古軍

蒙古軍トハ興安嶺ノ麓ニ彼ノ有名ナル馬賊ノ棟領巴布札布
ヲ首領トシテ居住セル蒙古人ノ集團ナリ、先是首謀者土井
大佐ハ青柳予備陸軍大尉等六名ノ將校下士ヲ蒙古ニ派遣シ
巴布札布軍ヲ滿洲ノ騷擾ニ加ハラシムルノ画策ヲ講ジ青柳
大尉ト巴布札布トノ間ニコレニ関スル協定ヲ成立セシメタ
リ、カクテ五月初旬巴布札布ハ千五百名ノ馬賊ヲ率キテ其
居住地ヲ發足シタルモ何等輜重ノ用意ヲモナサズシテ途上
到處掠奪ニヨツテ其糧ヲ求メツツ且ツ支那官軍ノ邀撃ヲ避
ケンガ為メ迂回シテ通常一ヶ月ヲ以テ到着スヘキ道程ヲ約
三ヶ月ヲ要シテ八月十三日滿鉄沿線郭家店ニ到着セリ其到
着スルヤ滿鉄附屬地外ニ於ケル民家ヲ襲ヒ掠奪ヲ恣ニシ殊
ニ二日間ニ亘リテ其民家ヲ焼尽セルノ暴行ヲ敢テセリ
然ルニ一方帝國官憲ハ彼等ガ附屬地ニ侵入シテ陣營セルニ
對シコレヲ退散セシメント欲スト雖元ト其懲遏ニ基キテ殺
到セルモノナルニヨリ其処置ニツキテハ殆ンド当惑セリ而
シテ蒙古軍ハ青柳大尉トノ協定ヲ強要シテ止マズ依テ帝國

官憲ハ彼等ニ与フルニ金員ヲ以テシ其解散ヲ勸メシモ彼等
ハ武器ノ供与ヲ望ンデ一步モ譲ラザリキ、茲ニ於テ万一不
調ノ場合ニハ帝國官憲ノ失態ヲ暴露スルコトトナルヲ慮リ
不止得大砲六門(野砲)銃八百挺及彈藥一人宛五百發(蒙
古軍ハ約半数即七百餘ノ銃ヲ所有セリ)供与シテ百万說得
シテ漸ク其ノ本拠ニ帰還スルコトヲ承諾セシメタリ

先是蒙古軍ノ郭家店ニ來襲スルヤ張作霖ハコレヲ擊破セン
トシ其討伐支那官兵ノ滿鉄乗車ヲ要求セルニ帝國官憲ハ嚴
正中立ヲ聲明シテコレヲ拒絕セシカバ支那軍ハ止ムヲ得ズ
長春ヨリ徒步郭家店ニ軍ヲ進メ蒙古軍ト砲火ヲ交ヘシモ蒙
古軍ハ滿鉄附屬地ヲ本拠トシテ對抗セルカ為メ附屬地ハ勢
戰火ノ巷ナラントセリ依テ

我官憲ハ支那官軍ニ對シ附屬地ヲ攻撃スルノ不法ヲ責メ一
面附屬地ノ周圍ハ我日本兵ヲ以テコレヲ囲ヒ恰モ蒙古軍ヲ
包擁スルノ形ヲナシ支那官軍ノ手ヲ下ス能ハザルニ至ラシ
メタリ併シナガラ附屬地内ニ蒙古軍ノ占拠スルヲ認容スル
ハ當局トシテ亦コレヲ久ウスルコト能ハサルハ固ヨリナ
リ、サリトテ又蒙古軍ヲシテ見ス々々死地ニ陥ラシムルコ
トモ其根原ニ顧ミテ為シ能ハサル処ナリトス、茲ニ於テカ

一方其兵力ヲ充實シテ虚勢ヲ張ラシムルガ為メニ關東租借地營城附近ニ練兵セル宗社党七百名ヲ二回ニ分チ応援軍トシテ八月二十二日コレヲ蒙古軍ニ合併セシメタリ(但シ滿鉄ニテハ宗社党ヲ輸送スルコトハ曩ニ支那官兵輸送ヲ拒絶セル關係上抗議セリト雖モ都督府ノ強圧ニヨリ武器一切コレヲ積マサルノ約束ニテ通常乘客トシテ其輸送ヲナセリ而シテ武器ハ陸軍ニ於テ郭家店ニ於テ彼宗社黨員ニ附与セリ)而シテ他方帝國官憲ハ百万張作霖ノ压迫ニ努メ休戦云々及居中調停ニ藉口シテ蒙古軍ノ退路ノ容易ナランコトヲ努メ殊ニ其監視ニ名ヲカリテ蒙古軍及宗社党ノ引上ゲン際シ騎兵一中隊ヲ附シ其帰路ノ安全ニ期スル能ハザルヲ慮リ「朝陽坡ニ於テ支那官軍蒙古軍邀撃シ遂ニ我軍旗ヲ砲撃セリ」トノ虚構事實ヲ喧伝セシメ蒙古軍援護兵ノ増発ヲ企図シ今ヤ佐藤少將ノ率キル歩兵二個聯隊及騎兵二個大隊工兵一個大隊ニヨリ蒙古軍ノ帰路ヲ安全ナラシムルコトヲ計リツツアリ、而シテ蒙古軍ハ元來何等ノ輜重ヲ有セス到ル処掠奪ヲ逞フシテ其糧食ヲ求ルカ為メ其軍ノ通過スル処民生色ナキノ有様ナリ

三、鄭家屯事件ノ真相

置シテ数日間帰宅セシメズ一面其守備隊ヲ増置シ更ニ支那兵ヲ三清里ノ地ニ退去セシムル等ノ手段ヲ講ジタル等是其真相ナリトス

叙上ノ事實ヲ約論セハ畜ニ乱暴狼藉ノ一言ヲ以テスル外ナク(1)關東租借地ノ治安ニ任ス可キ關東都督カ其域内ニ宗社党カ兵殊ニ馬賊ヲ集合シテ其練兵ヲナシツアルヲ默認セル如キ(2)宗社党ノ解散ヲ協定スルタメ帝國政府ノ高官タル外務省參政官及參謀本部支那課長カニ参与セル如キ(3)亦治安保持ノ責任アル滿鉄附屬地ニ蒙古軍ヲ陣營セシメ殊ニ附近民家ノ掠奪ヲ認容シ及燒棄ヲ傍觀セル如キ(4)陸下ノ軍隊ヲシテ土匪馬賊ノ集団タル蒙古軍ヲ護衛セシメ更ニ其蒙古軍ノ到ル処掠奪ヲ幫助スルノ形ヲ造成シツツアル如キ真ニ天下ノ一怪事トシテ帝國ノ面目ヲ汚瀆スルモノトイフベク如何ニ此善後策ヲ完フスル歟ハ応ニ憂國ノ識者顧慮ヲ要スヘキ処ナリトス

(欄外註記)

「西原龜三氏機密内觀トシテ手交(九月二十八日)」

九四〇 九月七日

石井外務大臣ヨリ
在本邦露国大使宛

同事件ハ実ニ些々タル事實ニ原因セルモノニシテ始メ在任日本人カ支那人魚店ニ三拾錢ト唱フル魚類ヲ拾錢ニセヨト称シ半強奪セントセルニ胚胎シ(此手段ハ曩ニ朝鮮ニテ慣行シ現時滿洲ニテ邦人ノ慣行セル手段ナリ)偶々傍觀セル支那兵憤慨シ遂ニ邦人ト支那兵トノ間ニ爭論ヲ生シ延テ相互乱打セルニ至リ邦人ハ擦過傷ヲ蒙リシニ依リ直ニ之ヲ日本巡查川瀬某ニ訴エタルヲ以テ川瀬巡查ハ直ニ兵營ニ至リ犯人ヲ捕エントシ茲ニ亦門衛トノ爭論ヲ生シ川瀬巡查ハ其目的ノ達スル能ハザスヲ見ル哉日本守備隊ニ応援ヲ求ムルニ至リ遂ニ松尾中尉ハ兵士拾余名ヲ率キ支那兵營ニ迫リ隊長ト面談センコトヲ求メタルニヨリ支那兵營ヨリ把長(曹長ニ相当ス)出テ來リ其來意ヲ問ヒシニ曩ノ事實ヲ以テセルニ依リ支那把長ハ答ヘテ曰ク茲処ハ陣營ニシテ恁ル事件ヲ査問スル処ニ非ズ宜シク処事者タル知果ニ依リ其事實ヲ査セラルルヲ正処ノ順序トナス從テ隊長面談ノ要ナシト拒絶セルヨリ其間言語ノ不通行違ヨリセル乎松尾中尉ハ突然ニ軍刀ヲ以テ該支那把長ノ右手ヲ切断セルニ至リ茲ニ双方銃火ヲ交ユルニ至レルナリ是レ所謂鄭家屯事件ノ原因ナリトス其後日本守備隊ハ遼源知果知事並ニ商務總會々頭ヲ拘

長春騷擾事件關係者ハ日本政府側ノ説諭警戒

ニ依リ近々解散ノ答ナル旨回答ノ件

覺書

八月十四日附在本邦露国大使閣下覺書ニ関シ帝國外務大臣ハ極秘トシテ左記ノ通り露国政府ニ回答スルノ光榮ヲ有ス先般來滿洲及蒙古方面ニ於テ宗社党舉事計畫アル旨竝ニ日本人ニシテ直接間接之ニ關係セルモノアルコトヲ聞知シタルニ付帝國政府ニ對テ専ラ注意ヲ怠ラサリシ処其後右舉事計畫ハ多少ノ萌芽ヲ表ハシ來リ滿洲ノ平和ヲ攪乱スルノ虞アルニ付最早捨置キ難シト認メ一面關係日本人側ニ對シ宗社党トノ連絡ヲ絶チ且其行動ヲ慎ムヘキ様嚴重説諭ヲ加フルト同時ニ他面關係日本人ヲ經テ支那人側ニ對シテモ此際速ニ舉事計畫ヲ中止シ其集團ヲ解散スヘキ様出來得ル限り警戒ヲ試ミツツアリ而シテ本件關係日本人及支那人側共ニ上記帝國政府側ノ説諭警戒ニ服シ舉事計畫ヲ中止シ近々解散ヲ実行スヘシト予想セラル

日本外交文書
大正五年
第一冊
終

附錄 日本外交文書 大正五年第二冊 日附索引